

官版

國法汎論

下帙

第三冊

2

7條⁷

5157

8-4



門 保 7
號 5/57
共 8-4

明治六年刊行

イ、カ、ブルン、モリ著
從五位加藤弘之譯

國法汎論

文部省

下帙第三冊

國法汎論卷之六 下目錄

第十八款

第十二款

第六款 國家元首ノ權利

甲 國家元首ノ權利

第十三款

乙 不保任及保任

第十四款

丙 施政權 外權

第十五款

國法汎論

下目錄

一

文部省

丁 施政權 內權

第一 授官，大權

第二 授譽，大權

第十六款

第三 兵馬，大權

第四 警保，大權

第十七款

第五 司法，大權

第十八款

第六 財務，大權

第七 監臨，大權

第八 教育方法，看護

第十九款

第九 權利施行，體裁即布告及命

令

第二十款

第十 政府非常，權即國家不得已

，權

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 瑞士, 加藤, and 和之.



國法汎論卷之六

瑞士

加藤和之譯

第十二款

第六 國家元首ノ權利

ウーベレル

甲 マエステートノ權利

トノ本義ハ尊貴顯榮ト云フ
カノ如キ意ニシテ天子ノ尊稱
ニ用フルル畧漢土ノ陛下ニ
相似タル然ルニ又君主ノ尊
貴顯榮ニ關スル權利ト稱ス

猶本文ニ
詳ナリ

〔第二〕君主ハ即スウエレイン〔按〕國家ノ大權ヲナ
 ルヲ以テ、又國家ノ尊貴顯榮ヲモ、一身ニ負荷ス、
 是故ニ君主タル者ハ、必スマエステイトノ權利ヲ
 有スル者ニシテ、縱令マエステイトノ尊稱ヲ得
 ル能ハサル所ノ君主ト雖モ、此權利ヲ有スルニ
 至リテハ、決シテ異ナルヲナシ、
 方今ハマエステイトノ尊稱ヲ以テ、唯カイゼル、
 〔按〕通常帝ト譯ス、故及ケルニダ〔按〕通常王ト譯ス、
 以下皆帝ト譯ス、故及ケルニダ〔按〕通常王ト譯ス、
 譯ニハ用ヒテ、其他ノ君主ハ、縱令國家ノ主權

ヲ掌握スト雖モ、決シテ此尊稱ヲ用ヒス、元來此
 尊稱タルマ、羅馬ニテ帝位ヲ尊稱スルニ用ヒタ
 ルヨリ起リ、次テ佛朗哥國ニテ用ヒ、又夫ヨリ傳
 ヘテ獨乙帝ニモ用ヒタリ、其後又中古ノ末ニ至
 リテ王ヨリ帝ヲ尊崇スルニ此稱ヲ用ヒタリ、去
 氏王ハ帝室ヨリ、此稱ヲ受ルヲ能ハサリキ、○又
 エストハレシノ講和〔按〕一千六百十八年ニ至ル迄、三
 十年間、獨乙ニテ戦争アリテ、遂ニエトハレ
 争トノ後ニ至リテハ、獨乙政府〔按〕即帝ノヨリ王
 ヲ尊崇スルニ、マエステイトノ語ヲ用フルト

ナリ、且、司選候ルスト、モ亦、此尊稱ヲ受ンテヲ望ムニ至レリ、

但、マエステートノ權利ナシト雖モ、唯此尊稱ヲ得ルニ於テ妨ナシ、是故ニ后妃及既ニ位ヲ禪リテ、政權ヲ辭セル君主ニモ、其尊榮ヲ表スルカ為ニ、此尊稱ヲ用フルヲ通例トス、マエステートノ權利ハ、復此尊稱ノ有無ニ關スルヲナシ、是故ニ君主ノ國家元首タル尊榮ヲ毀損スル者アルハ、之ヲマエステートベライチグング羅甸語ニキリメシ、レセ、マエステート云、按君主ノ尊榮ヲ毀損スル罪科ノ義、

ノ罪ヲ犯セル者トシテ、臣民ノ體面ヲ毀損セシヨリハ、更ニ重キ刑ヲ加ヘタリ、方令民主國ノ國法ニテハ、其元首ニマエステートノ權利、及其尊稱ヲ與フルヲナシト雖モ、舊羅馬民主國ノ法ニテハ、其主長ニマエステートノ權利ヲ與ヘタリ、但シ尊稱ハ與ヘザリキ、
第二、君主ハ敢テ侮辱ス可ラスリフカイトト為シ、且、君主ノ身ハ、即神聖リフト、イナリト為ス、而テ此事モ亦、羅馬ノ國法ニ於テ、始テ詳定セシナリ、元來羅馬ニテホルクストリブン[○]ノ權利

ヲ確保センカ為ニ、若シ之ヲ侮辱スル者アレハ、天神必、其身軀、及其所有物ヲ没入ス可シクククサト定メタリ、然ルニ其後羅馬帝起ルニ至リテ、此ホルクストリブシノ權カ及、此規律（按）天神必、身軀所有物ヲ没入ス可シクククサト云フ規律、ヲ合セテ、共ニ帝ニ移傳シ、且、基督教行ハル、ニ至リシヨリ、帝ヲ以テ神聖ト為スノ意、益確實トナレリ、

○〔按〕古時羅馬ニパトリシール及、プレベスト云ヘルニ種ノ民アリテ、パトリシールハ貴族、プレベスハ平民ナリシカ、一時此二種

ノ民不和ヲ生シテ、遂ニプレベスノ族、ハイリグベルグト云ヘル山中ニ移住セシニ、其後又パトリシールト條約ヲ為テ、尔後プレベスノ中ヨリ、代議者ヲ出シテ、パトリシールト共ニ、國事ヲ議スルヲ定メタリ、仍テ此代議者ヲ稱シテ、ホルクストリブシト云ヒシナリ、

加特力教ヲ奉スル所ノ國ニテハ、此二件（按）君主ノ意、令仍盛ナリ、但、波羅特、七旦教ヲ奉スル國ニテモ、君主ノ侮辱ス可

ラサルノ規律ハ國法ニ於テ甚緊要トシテ、嚴ニ之ヲ定ムト雖モ、君主ヲ以テ神聖ナリト為ス規律ニ至リテハ、方今全ク廢シタリ、

○巴以里國一千八百十八年文政元年國憲ニ云、

王ノ身ハ神聖ナリ、敢テ侮辱ス可ラス、又西班牙國一千八百三十八年天保九年國憲ニ云、王ノ

身ハ神聖ナリ、敢テ侮辱ス可ラス、又云、王敢テ保任ノ責ヲ負ハス、

按保任ノ事本卷第又奧地利一千八百四十九年嘉永二年國憲ニ云、帝ハ

神聖ナリ、敢テ侮辱ス可ラス、又云、帝敢テ保任

ノ責ヲ負ハス、

按以上三國ハ皆專ラ加特力教

君主ノ規律ヲ存ス、然ルニ荷蘭一千八百四十

八年嘉永元年國憲及普魯士國一千八百五十年

嘉永三年ノ國憲ニハ、唯王ヲ侮辱ス可ラサル旨ヲ

載スルノミ、按此ニ國ハ波羅特士旦教ノ國ナ

リ、故ニ王ヲ以テ神聖ト為スノ國ナ

リ、律ナ

第三 君主ハ其尊榮及威嚴ヲ表スルカ為ニ、必國

ノ表章ニシテ、乃正善ヲ保護シ、邪惡ヲ譴罰スル

威權ノ表章、環ハ乃公明仁慈ノ表章ナリ、其他猶

トノ表章、劍ハ乃正善ヲ保護シ、邪惡ヲ譴罰スル

威權ノ表章、環ハ乃公明仁慈ノ表章ナリ、其他猶

トノ表章、劍ハ乃正善ヲ保護シ、邪惡ヲ譴罰スル

威權ノ表章、環ハ乃公明仁慈ノ表章ナリ、其他猶

各國皆各種ノ表章アリ、譬へハ古時獨乙帝ノ位
 ニ即クニ方リ、始テ得レ所ノ金ノライフスルベ
 レ〔按〕菓實ノ如ク球ハ、即全地球ヲ統御スルノ表
 形ニ造リタル物、ハ、昔時獨乙ノ内相和セスレテ、互
 章又雙頭ノ鷲ハ、昔時獨乙ノ内相和セスレテ、互
 ニ抗拒セシフ、國帝始テ立ツニ追テ之ヲ和セシ
 メ、以テ一體トナセシフ、示スノ表章ナルカ如ク、
 其他又百合花ハ佛國王ノ表章、獅子ハ英國王ノ
 表章ナルカ如ク、儘又王自ラ好テ、各種ノ表章ヲ
 用フルヲアリ、
 〔第四〕其他王位ノ隆榮ヲ表スル者二類アリ、其一

ハ、即王室ノ職官、ホトフス、其二ハ、即君主ヲ崇敬ス
 ルニ要スル所ノ善美ノ儀禮ニシ、モ是ナリ、古時
 佛朗哥國ニテ、王室ニ四種ノ職官〔按〕四種ノ官ト
 官、厨房ノ事ヲ掌ル官、害藏ノ事ヲ知ル官、開廐ノ
 事ヲ掌ル官、是レナリ、マイエル氏著ス所ノコ
 ン王サチオンズ、レキレヲ置キシヨリ、中古ノ諸
 王室、亦皆此制度ニ倣ヒタリ、而メ今時王室ノ職
 制、亦之ニ淵源スル者多シ、又今時君主ヲ崇敬ス
 ルノ儀禮ニ至リテハ、古時ビツァンツ帝國〔按〕紀元
 十五年ニ於テ、羅馬帝テオドレウス、テゴル
 セ羅馬國ノ版圖ヲ二分シテ、東西ノ二國トナシ、
 テ東羅馬又ビツァンツ國ト云ヒケリ、ニテ、用ヒ

タル儀禮ニ倣フモノアリ、但此國ノ儀禮ニ於テハ、君主專治國ノ意甚盛ナルノミナラス、尚且東方諸國〔按亞細亞諸國ヲ云〕ノ風習ニテ、教法ノ意萬緒ノ事體ニ關係スルカ如ク、此儀禮中ニモ亦、教法ノ意寓スルモノニレテ、大ニ方今文明開化國、自由ノ道理ニ戻レル者ナキニアラス、

〔第五〕君主ハ必隆盛豐饒ナルヲ要ス、然ラサレハ、決シテ巍々タル尊貴ヲ示スニ足ラス、然ルニ民主國ノ如キハ、之ヲ以テ緊要トスルコトナシ、但シ縱令民主國ト雖モ、其主長タル者、衣食ニ乏シク、

困阨貧窶、其生ヲ送ルヲ以テ、主適トスルノ理ハ、決シテアル可カラズ、蓋主長タル者、此ノ如クナルハ、帝ニ豪戸ノ壓倒スル所トナルノミナラス、尋常富民モ亦、睥睨スルニ至ル可シ、○君主國ニテハ、國家億兆仰ク所ノ榮光、常ニ君主ト、其威旗ノ身ニ哀マリ、煥然トシ、其光輝ヲ發揚スル者ナレハ、君主ノ豐饒ナルハ、實ニ緊要ノ事ト云フ可シ、

君主ノ家産ハ、其君職ヲ盡スカ為ニ、必要ナル費ヲ支償スルヲ以テ、足レリト為ス可カラズ、其家

産ヲ以テ尚汎ク國民ニ慈惠ヲ施シ且國內ノ學
 術技藝ヲ勸導獎勵シ以テ人材ヲ育セスハアル
 可カラズ非的利、テ、ル、ゴ、ロ、ー、セ、ノ、語、ニ、人、君、ハ、猶
 天ノ日夜雨露ヲ降シ、常ニ下土ヲ潤シテ止マサ
 ルカ如クナル可レト云ヘリ、故ニ君主ノ多ク財
 ヲ費スヤ、唯節度ヲ失テ奢侈淫蕩ニ流ル、ノ弊
 ヲ生スルニアラサレハ、却テ國家安康ノ為甚緊
 要ナルトニシテ、決レテ惡シキト為ヌ可カラ
 ス、○是故ニ王室ノ貧富ハ、猶君主ノ一身ニ於ル
 カ如ク、殊ニ全國ノ利害ニ關係スル者ニシテ、決

レテ臣民ノ貧富人、其一身ニ止マルカ如キニア
 ラス、故ニ王室ノ財政ハ、民人ノ家事ト、其意全ク
 相異ナリ、
 羅馬國ノ帝國トナリシ以來ハ、其民主政體ノ時
 ニ於テ、國家ノ所有タリシ財用又漸ク帝ノ有ト
 レテ之ヲ自己ニ屬セルヒスクス（按）所有ニ合併
 スルニ至リ、總テ國家ノ所有ヲ以テ、其諸法典ト
 共ニ、悉皆帝ノ專ラニスル所ト為セリ、又中古羅馬
 人種、及日耳曼人種ノ各國（按）羅馬人種ノ各國ト
 西方ノ各國ニシテ、殊ニ（按）歐羅巴ノ南方及南
 等ノ云々、又日耳曼人種ノ各國トハ、歐羅巴中央、及

北方ノ各國ニシテ、殊ニ獨シ、ニテモ、君主巨大ノ
 荷蘭、連國、瑞典、那威等ヲ云、
 ドメーレン（按）君主ニ屬ス、ヲ所有シ、且、國家ノ稅餉
 フモ、恣ニ用フルノ權ヲ有シタリ、但、政府ノ定費、
 及、法院ノ費用等ハ、總テ其所有ヲ以テ之ヲ償フ
 ノ義務ヲ荷フタリキ、然ルニ近令ニ至リテハ、大
 ニ公私ノ分別ヲ明ニシテ、此ノ如キ混同ヲ廢シ
 タリ、

甲 眞ニ國家ノ所有タル可キ者ハ、決シテ獨
 君主ニ屬セス、必、國家全體ニ屬スル者ニ
 シテ、國家ノ諸歲入ハ、悉皆國家ノ所有ス

同、ル所ナリ、故ニ又此所有ヲ以テ諸歲出諸
 公費ヲ償フ、當然ナリト為ス、
 乙 王室ノ費用ヲ償フカ為ニ、國家ヨリ君主
 附與スル所ノ財用ハ、即チヒルリス
 テト稱スル者ニシテ、之ヲ以テ王室ノ私
 事ニ費スハ、君主ノ自由ニ任ス、
 丙 眞ニ王室ノ私有タルモノ、
 始テヒルリス、テノ制ヲ設ケシハ、英國ニシ
 テ、最初ハ、毎年「バレンカ門」ノ會議ニテ、其額ヲ定メシ
 カ、後世ニ至リテハ、預定額ヲ立テ、屢變更スルコ

ナシ、○但其初ニ於テハ、從來王室ニ收受セシ國
 家歳入、及、稅餉ヲモ、チヒールリステニ加ヘタリ
 シカ、輒近ニ至リテハ、全ク此等ノ稅餉ヲ除去ス
 ルトナリ、且、近今各國立憲君主國トナルニ及
 國憲ニ於テ、全ク此ノ如キ混同ヲ廢スルヲ確
 定シタリ、○但、此ノ如キ公私ノ混同ヲ全廢セシ
 以來、君主歳入ノ額ハ、全ク代國府ノ議定ニ因ル
 者トナリテ、從前公私混同セシ世ノ如ク、全ク王
 室ノ自由タラサルハ、固ヨリ論ナシ、去レ此混
 同ヲ廢セシカ為、ニ、王室會計ノ規則能ク整ヒ、又

屢、費用多寡ノ差ヲ生スルノ憂、或ハ俄ニ許多ノ
 費ヲ銷スル等ノ憂全ク止ミ、且、額數既ニ定マレ
 ルカ故ニ、預メ費用ヲ算定シテ、其節制ヲ設ル
 自ラ亦容易トナリ、其他國民モ亦國家ノ經濟ニ
 預ルヲ得テ、王室奢侈ノ為、ニ、收斂セラル、等ノ
 患除キ、又王室竊ニ代國府ニ賄屬シテ、若干ノ徵
 稅ヲ議定セシムル等ノ弊止ミ、且、時勢ノ變化ニ
 隨テ、チヒールリステノ額ヲ定ムルヲ、甚、容易ト
 ナリ、君民共ニ大ニ便ヲ得ルニ至レリ、
 ○一千六百八十九年、元祿名穀盛ナル顛覆ノ

後、維廉第三、及其妃馬亞即位ノ時ニ於テ、始テ
定額ヲ立テ、（按）一千六百八十九年ニ神教及
暴政ノ事ヨリ顛覆起リ、國王マ

コップ第二、遂ニ佛

國ニ奔リタリ、（按）本卷第二ニテハ、

パトリモニアル、スタート（按）本卷第二ニテハ、

國家ヲ以テ、王室ノ私有トナスカ故ニ、決シテ

ヒールリステノ制アル可キ理ナシ、然ルニ方今

歐洲各國ノ君位ノ如ク、威強ノ威望ヲ以テ、其全

權ヲ一身ニ負荷セル者ニ、チヒールリステヲ附

與スルハ、真ニ當理ノ事ト云フ可シ、頭首ハ其滋

養ヲ、體軀ノ各部ヨリ資取スルニアラスマ、然ラ

ハ則國家全體ノ為、其理治ニ勞スル君主ニシテ、

其需用ヲ國家全體ヨリ資取スルヲ、何ソ非理ト

セシヤ、

チヒールリステハ、通常毎歳ノ定額金、及、王居、宮

殿、博物院、其他寶器ノ類、總テ國家ヨリ王室ニ附

與スル者ヲ云フ、英國ニテハ、君主ノ即位毎ニ巴

力門憲法（按）王ト兩院ト相議シテ、以テ、其君主在

位中ノ定額ヲ立テ、佛國亦其恢復（按）一千八百十四

再ヒ王位ヲノ時ヨリ、此制ニ倣ヒ、比耳時モ亦此

得ルヲ云フ、國憲第四十三條ニ、其旨ヲ記載シ、荷

蘭亦此制ヲ取テ其國憲第二十七條ニ之ヲ記載セリ、其他ノ各國亦此制ヲ取ル者多シ、唯獨乙各國ニテハ、或ハ預メ金額ヲ定メテ、終始變更セサル國アリ、或ハ國家ヨリ王室ノ所屬トセルドメ[○]一[○]ニ[○]見[○]前[○]ノ[○]稅[○]餉[○]ヲ[○]以[○]テ[○]其[○]歲[○]入[○]ト[○]ス[○]ル[○]國[○]ア[○]リ、[○]○[○]又[○]西[○]班[○]牙[○]ノ[○]如[○]キ[○]ハ、其[○]國[○]憲[○]第[○]四[○]十[○]九[○]條[○]ニ[○]據[○]ルニ、君[○]主[○]ノ[○]即[○]位[○]每[○]ニ[○]チ[○]ビ[○]ル[○]リ[○]ス[○]テ[○]ノ[○]額[○]ヲ[○]定[○]ムル[○]ヲ[○]專[○]ラ[○]コ[○]ル[○]テ[○]ス[○]府[○]ナ[○]リ、[○]議[○]ニ[○]委[○]任[○]ス、葡[○]萄[○]牙[○]ノ[○]國[○]憲[○]第[○]二[○]十[○]七[○]條[○]ニ[○]載[○]ス[○]ル[○]所[○]モ[○]亦[○]之[○]ニ[○]同[○]シ、又[○]希[○]臘[○]國[○]ニ[○]於[○]テ[○]ハ、其[○]國[○]憲[○]第[○]三[○]百[○]五[○]十[○]七[○]條[○]ニ[○]十

年每ニ會議ヲ以テチヒールリステラ改正スル由ラ載ス、[○]○[○]但[○]兩[○]院[○]ヲ[○]レ[○]テ[○]其[○]欲[○]ス[○]ル[○]所[○]ニ[○]隨[○]テ、屢[○]君[○]主[○]需[○]用[○]ノ[○]額[○]ヲ[○]變[○]更[○]セ[○]シ[○]メ、且[○]此[○]額[○]ヲ[○]以[○]テ[○]朋黨[○]相[○]争[○]フ[○]ノ[○]候[○]正[○]ト[○]為[○]サ[○]シ[○]ム[○]ル[○]カ[○]如[○]キ[○]ハ、實[○]ニ[○]君[○]主[○]ノ[○]君[○]主[○]タル[○]威[○]望[○]ヲ[○]損[○]ス[○]ル[○]ノ[○]甚[○]シ[○]キ[○]者[○]ト[○]云[○]フ可[○]シ、

○[○]巴[○]以[○]里[○]國[○]一[○]千[○]八[○]百[○]三[○]十[○]四[○]年[○]天[○]保[○]ノ[○]國[○]憲[○]第[○]二十[○]三[○]條[○]及[○]普[○]魯[○]士[○]國[○]一[○]千[○]八[○]百[○]二[○]十[○]年[○]文[○]政[○]ノ[○]國[○]憲[○]第[○]五[○]十[○]九[○]條[○]ヲ[○]參[○]看[○]ス[○]可[○]シ、
 ○[○]タ[○]ー[○]ル[○]マ[○]ル[○]ニ[○]按[○]獨[○]乙[○]人[○]一[○]千[○]七[○]百[○]八[○]十[○]五[○]年[○]ノ[○]生[○]ハ[○]八[○]百[○]六[○]十[○]年[○]ニ[○]死[○]ス、

政學書ニ、毎年金額ヲ定ムルカ如キハ、一私人ノ家事ニ於テスラ、尚堪ユ可カラス、去ルヲ國家第一等ノ王室ニシテ、此ノ如キ制アルハ、實ニ笑フヘキヲナラスヤト云ヘリ、理アル論ト云フ可シ、

チヒールリステヲ以テ、他ノ國家所有ト全ク相分テル國ニ於テハ、國家ノ歳入、其歳出ヨリ多キキハ、則之ニ由テ國家ノ儲蓄ハ増益スレト、君主ノ富有ハ決レテ増益セス、又君主國家ヨリ收受セレチヒールリステヲ節用レテ、貯蓄ヲ為スキ

ハ、若、他ノ事故アルニ非レハ、君主ノ富必、増益スルヲ得可シ、
 王子及、王族ノアバナトセ（按）王子王族ノ費用ノ為ニ、國家ヨリ附與スル所ハ、之ヲチヒールリステノ内ニ算入セスレテ、別個ニ附與スルヲ良法トス、總テ君主ノ位置ハ、國家至重ノ者ナルカ故ニ、其チヒールリステヲ以テ、兼テ多少ノ王子王族ノ需用ニ充テシムルハ、甚、可ナラス、王子王族ハ、自ラ王室所有（ハ）タデル、コロゲン子、ノ貧富ニ準シ、其品位ニ應セル活計ヲ營ム可キノ權アルノミ、而レテ此活計ノ方法

ハ、殊ニ私法ノ規律ニ屬シテ、國法ノ規律ニ屬セ
 ス、然ルニ君主ノ權利ハ、殊ニ國法ノ規律ニヨル
 者ナリ、但、王子王族ノ活計ノ方法モ、亦自ラ王室
 ノ顯榮、國家ノ威嚴ニ、關係ナシト云フ可ラスト
 雖モ、決レテ大關係アル者ニハアラス、○歐洲各
 國ニテ、國土ヲ治ムルノ權ハ、必、唯一ナラサル可
 ラサルノ理、輒近始、テ明瞭トナリテ、國法ニ於テ、
 此理ヲ貴重セシカ故ニ、版圖ハ必、分割ス可ラサ
 ルハ法トナリ、且、ドメーレン及、コロニングート（按
 室ニ屬スニ至テモ、共ニ王位ヲ繼ク所ノ君ニ傳）
 ル土地

ナルトトナリシヨリ、始、テアパナトーセノ制起リ
 タリ、故ニ昔時ハ、其他ノ王子王族等、皆王室ノ所
 有ヲ君主ノ遺物トシテ、分取スルノ權利ヲ有セ
 シカ氏、輒近此權利ヲ廢シテ、始、テアパナトーセノ
 制ヲ立テ、王子王族等、之ヲ以テ其需用ニ充ル
 トナリ、而、テ其額數ハ、王室所有ノ貧富ニ準シ、且、
 王子王族ノ需用ニ應シテ、國君自ラ之ヲ定メタ
 リ、但、近今ノ國法ニテハ、必、憲法ヲ以テ、其額數ヲ
 定ムルトトナリタリ、

第十三款

乙 不保任、ルウンヘル トリフカイト、フカイト 及ヒ保任、

ヘルファン トリフカイト

〔第二〕國家ノ元首タル者自己ノ處置ヲ保任スル
ヲ以テ良法トスヘキヤ否ノ論、古來各國ニ於テ、
相同シカラス、羅馬ノ國法ニテハ、民主政體ノ時
ニ於テスラ、政府ノ主長タル者、尚其職掌區域内
ノ事ニ就テハ、敢テ保任セサルノ法ナリキ、然ル
ニ古時日耳曼ノ法ハ、全ク之ニ反シテ、縱令君主
ト雖モ、必ス保任スルヲ以テ當然ノ事ト為シタ

リ、○方今君主政體ヲ立ル所ノ歐洲各國ニテハ、
全ク羅馬ノ法ヲ取テ、君主ハ敢テ保任セサル者
トス、但シニニステルヲ以テ、其政令ヲ保任ス可
キ者トナシ、而シテ君主ハ必スニニステルノ輔
佐ヲ得サレハ、敢テ政令ヲ施行ス可ラスト為ス
カ故ニ、君主不保任ノ權利モ、其實ハ自ラ限制セ
ラル、所アリ、唯獨リ佛國ナポレオン那破倫氏ノ國憲ニ於
テハ、君主敢テ保任スルノ法ヲ立ツ、方今ノ民主
國ニ至リテハ、概シテ日耳曼ノ法ヲ取テ、主長保
任ノ制ヲ用ス、○今左ニ古來保任、不保任ノ因テ

起リタル所以ヲ論ス、
 〔第二〕羅馬國ニテハ、素ク政權ノ威強ナルヲ以テ、專
 ラ緊要ノ事ト為シタリ、但シ其民主政體ノ時ニ
 於テハ、政權甚強大ニ過キテ、遂ニ專横ニ至ルヲ
 懼レシカ故ニ、之ヲ預防センカ為ニ、主長在職ノ
 年限ヲ短縮シテ、屢之ヲ改選スルノ法ヲ立テ、且
 政權ヲ一人ニ托セシテ、其勢ヲ分割スルノ法
 ヲ立タリ、去レモ若シ主長タル者、其在職ノ年限中
 必其政令ヲ保任セサル可ラサルノ法ヲ立ルキ
 ハ、主長ノ威力、遂ニ之ヲ為ニ減殺セテ、且其尊貴

顯榮、亦之ニ因テ、陵夷スル至ラシクテ、恐ク加
 之、國家第一等ノ高官タル者、同等若クハ下等官
 員ノ審判ヲ受ルル、條理甚々紊ル、トト為セシ
 カ故ニ、主長不保任ノ法ヲ立タルナリ、○是故ニ
 チベリウス、ガラフス〔按〕羅馬民主政體ノ時、ニ於
 テ、ホルクストリブン
 人ナリ、ホルクストリブン〔按〕ハ、其同僚マルクス
 本卷第二款〔第三〕ニ詳ナリ、
 オクタヒウスノ職ヲ放ツノ議ヲ唱ヘテ、遂ニ之
 ヲ逐ケシハ、即從來ノ法ヲ破リタルナリ、既ニ西
 塞〔按〕羅馬ノ民主政體ノ時ニ於
 テ、政府ノ主長ナリ、人負ニ
 名トノ職ハ、決シテ罪ヲ以テ放ツ可カラスト云

ヘリ、其後州縣ノ長官、繼令罪アリト雖、其必其在職ノ期滿ル後ニアラサレハ、決シテ法院ニ於テ、審判ヲ受クルトナカリキ、○其後帝國トナルニ及テハ、繼令其官負罪アリト雖、帝自ラ其罪ヲ問フニ非サレハ、亦他人ノ之ヲ糾彈スルヲモ許サ、リキ、○帝必、自ラ憲法ヲ敬重スルノ義務ヲ負ハサルニアラス、去レ、氏若時アリテ、自ラ憲法ノ區域ヲ超テ、或ハ不正ノ事ヲ為ストアリ、氏決シテ此罪ヲ問フノ方法ハ有テ、サレキ、是故、帝ナレ者、不絶、テ憲法ノ為ニ束縛限制セラル、

非スト云フニ至レリ、
 第三、中古日耳曼ノ論、全ク羅馬ノ論ト相反セリ、日耳曼人ノ意ニテハ、繼令政權ヲ握リテ、國家ノ尊貴ヲ負ヘル者トイヘ、氏罪アレハ之ヲ問フハ、當然ノトニレテ、公正ノ法ハ、敢テ曲ク可ラストセリ、故ニ通常ハ上等ノ法官、下等ノ官負ヲ審判スルノ法ナリシカ、若、上等ノ法官、自ラ法ヲ犯シテ、國家ノ安寧ヲ害スルトアルハ、其代者〔按〕下等ノ法官ニ代ハル者ヲ云、上官ノ罪ヲ審判スルノ法ナリキ、

中古ノ頃ニハ、王公侯伯、罪ヲ犯スニ至リテハ、帝
 之ヲ審判スルヲ以テ、當然ノトトセリ、去レ此事
 ノ實ニ行ハレシハ、唯帝ノ統御内ナル獨乙羅馬
 合國ノミニシテ、其他ハ基督教ヲ奉スル各國ト
 イハレ、決シテ行ハレサリキ、〔按〕帝獨乙羅馬ヲ合
 故、此法此合國ニハ行ハレタレ、其餘ノ各國ハ、
 實ニ帝ノ統御ヲ仰カサリシ故、行ハレサリシヲ
 云、但右此各國ノ王公モ、亦絶テ帝ノ統御ヲ仰カ
 サリシト云フニハ非サレ、只殆ト帝ノ爵位ヲ
 尊崇セシノミニシテ、實ニ全ク其統御ヲ受ケシ
 ニ非サレハナリ、○其後ニ至リテ、帝獨乙各國王

公ノ爵位ヲ放ツニ方リテハ、必^ス先^ッライフスタグ
〔按〕獨乙ノ許可ヲ得サレハ、之ヲ施行スルヲ能
 合議府乙ノ法トナリシカ、後年獨乙帝國崩解〔按〕
 ハサルノ法トナリシカ、後年獨乙帝國崩解〔按〕
 千八百零六年、獨乙帝國崩解セリ、然ルニ辛未ノ
 歳ニ至リ、普魯士王之ヲ恢復シテ、獨乙帝トナレ
 リ、ノ時ニ至ル迄、各國共ニ、猶帝ノ此權ヲ專ラニス
 ルヲ認許シタリキ、
 最大至高ナル帝ノ權威ハ、天神ノ授托スル所ト
 シテ、極メテ之ヲ尊重セシカ、是ニヨリテ、決シ
 テ帝ノ不保任ヲ許スルハ有ラサリキ、若シ帝ノ
 犯罪輕ウシテ、其位ヲ失フニ至ラサル者ナレハ、

他人ニ相對シテ、私法ニ屬スル所有ノ關係ナキ
 能ハス、是ニ於テ帝ノ所有ヲ以テ帝ノ私身ニ代
 へ、之ヲ以テ他ノ私人〔按〕臣民ト同等ノ者ト視做
 セシナリ、是ニ於テ國家ノ所有タルヒスクス〔按〕前
 款ニ論セシ如ク、古時ノ法ニテハ、國家所有ト王
 室所有トヲ分別スルヲ、今時ノ如ク判然タラサ
 リシ故、茲ニヒスクスヲ以テ、國家ノ所有ト及ヒ
 称スレ、凡其實ハ殆ト王室私有ニ異ナラス、
 ヒスクスニ同シキ權利義務ヲ有セル、帝室ノ私
 有ヲ一個ノ負債者ト視做シテ、之ヲ法院ニ訴フ
 ルノ權利、臣民ニ在リシカ故ニ、臣民實ニ法院ノ
 保護ヲ受ル者ニシテ、決シテ帝ノ為ニ、其權利ヲ

枉害セラレ、ノ憂ナカリキ、
 又方今各國ノ國法トイヘ、臣民君主ノ負債ノ
 事ニ就キ、之ヲ訴ヘントスルヲ阻止スルノ理、決
 シテアル可ラス、實ニ羅馬ノ國法ニ從フヘキ、
 固ヨリ當然ナリ、但日耳曼ノ法ノ如ク、臣民直ニ
 君主ヲ負債者トシテ訴フルヲ許シ、以テ其管下
 ノ法官ヲシテ、君主ヲ審判セシムルカ如キハ、條
 理ニ戾ルヲ甚クシテ、實ニ君主ノ體面ヲ毀損ス
 ルヲ、斷テカラサルヲ忘失ス可ラス、是故ニ輓近〔按〕不
 ウエレト子テトノ理開明セシヨリ、遂ニ此法

ヲ廢棄スルニ至リタリ。○方今ハ臣民國家ノ所
 有ニ就テスエ、尚訴訟ヲ為シ得ルノ法ナレハ、况
 テ君主ノチヒールリステ、或ハ其私有ニ就テ訴
 フルヲ得ルヲ、固ヨリ當然ナリ、
 然ルニ英國ニテハ、此事ノ規律未タ開明セスシ
 テ、獨乙ノ法ニ劣ルヲ甚クシ、何者、英國ノ法ニ於
 テモ、君主ノ負債ニ就テ、臣民ノ之ヲ訴フルヲ許
 シ、以テ臣民ヲ保護スルハ、獨乙ニ殊ナラスト雖
 氏唯臣民ノ之ヲ訴フル權利ヲ以テ、決シテ其當
 然ノ權利トナサス、特ニ國君ノ慈惠ニ出ル者ト

ナセハナリ、

○ 按 クラックストン 按 英人、一千七百二十三年ニ生ビ、八十年ニ死ス、ノ英
 法論ニ云、人若所有ノ事ニ就テ、國君ノ事ヲ訴
 ヘント欲セハ、按 カンツライホフ 按 上等ニ訴フ
 可シ、然ルキハ法官臣民ノ權利ヲ以テ、國君賜
 フ所ノ慈惠ト視做シテ、之ヲ保護シ、且、國君ノ
 此臣民ニ對セル義務ハ、法ノ嚴ニ命スル所ト
 為サス、特ニ國君慈惠ヲ臣民ニ施スカ為ノ務
 トナスト、按 蓋、ブラックストン氏ノ説ハ、按 考
 ルフ 按 獨乙人、一千六百三十二年ニ死ス、カ唱ヘタル考

察性法論スヘルマイントリトヘラ因襲スル者ナ
 リ其論ニ「賢明ナル君主ハ、敢テ臣民ニ對シテ、
 其約束ヲ破ルヲ欲セサルハ、固ヨリナレド、
 令若之ヲ破ルヲアリド、臣民タル者上ヲ要シ
 テ、此約束ヲ遂ケントスルハ、大ニ性法ノ理ニ
 戾レリ」ト云ヘリ、去レ其論中相矛盾スル所ア
 ルハ、辨ヲ俟タスレテ明カナリ、（按論中相矛盾スル
 難シ、但シ賢明ノ君ハ、約束ヲ破ルヲ欲セス
 云ヒナカラ、（按論中相矛盾スルト云ヘルヲ甚解ス
 法ト為サハルハ、（按論中相矛盾スル即相矛盾ス
 此所以ナルハ、（按論中相矛盾スル猶再考ス可シ、
 第五 刑法ノ事ニ就テハ、私法ノ事ニ於ケルカ如

ク、國君ノヒスクス、若クハチヒールリステヲ以
 テ、國君ニ代ハルヘキ者ト為ス可ラス、何者、ヒス
 クス、チヒールリステ等ノ如キ物ハ、固ヨリ罪ヲ
 犯スヘキ者ニアラス、且、國君ニ罰ヲ加ントスル
 法院ハ、素、國君管下ニ屬スル者ナルカ故ニ、乃チ下
 ニシテ上ヲ罰スルノ理ニシテ、甚良法ト云フ可
 ラス、且、（按論中相矛盾スル縱令、法ノ良否ヲ問ハス、敢テ之ヲ行フモ、
 君主ヲ罪犯人トシテ、之ニ刑ヲ加フルハ、其下タ
 ル者、實ニ忍フヘカラサルノ極ニシテ、且、之ニ由
 テ、大ニ君主ノ威嚴ヲ損シ、大ニ國家ノ安寧ヲ害

スル患アレハナリ、○君主一罪アルニ方リテ、設
 措テ之ヲ問ハサルキハ、必、其弊害ナシト云フ可
 ラス、去、氏問ハサルヨリ生スル弊害ヲ以テ、君主
 ニ刑ヲ加フルヨリ生スル弊害ニ比シテ、之
 ヲ考フレハ、則問ハサルヨリ、生スル害ハ尚小ナ
 リ、若、君主ノ罪狀ヲ擧テ、之ヲ罰スルキハ、是ニ因
 リテ、遂ニ全國ノ秩序ヲ破リ、安寧ヲ害スルニ至
 ラニテ必セリ、是故ニ近代ノ法ニテハ、君主刑法
 ノ事ニ就テハ、全ク保任セシテ、可ナルノ規律
 ヲ保守ス、

〔第六〕政令ノ處置ニ就テモ、亦方令各國ノ國法、皆
 全ク保任セサルノ規律ヲ用フ、去、氏此規律ヲ用
 フルノ意、并ニ其體裁ニ至リテハ、舊羅馬ニテ此
 規律ヲ用ヒシ意、并ニ其體裁トハ、全ク相異ナリ、
 羅馬ニテハ、君主ハ敢テ憲法ノ為、ニ限制セラレ
 スシテ、可ナル者ト為セシカ、氏、方令無限ノ君權
 アラサル各國ニテハ、全ク此意ヲ取ラスシテ、君
 主ナル者ハ、必、國憲、及ヒ憲法ヲ敬重スルノ義務
 ヲ負荷セル者ト為ス、故ニ此事ニ就テハ、方令ノ
 立憲國、皆共ニ羅馬ノ君權無限ノ法ヲ棄テ、而テ

日耳曼ノ法ヲ取テ、君主ハ國家法制ノ範圍中ニ於テ其頭首ニ位スル者トシテ、必先其法制ニ從テ自己ノ權柄ヲ施行シ、且共ニ其法制ヲ保護セサル可ラサル者ト為スニ至レリ、○各國皆君主自カラ許可シテ、此ノ如キ義務ヲ負荷セサル可ラサル者トセリ、故ニ國憲誓約ヘルバンスグスア、アイド、按登祚ノ時ニ遵奉スヘキ旨及ヒ登祚誓約コロロ、按登祚ノ時ニ於テ為スヲ以テ之ヲ天神及人民ニ誓フヲ常法ト為ス、若シ君主ヲシテ、現存ノ法ヲ遵守セシムルノ方法、愈少ケレハ、此ノ如キ制度、按誓約ヲ為愈

緊要ニシテ、且良善ナリトス、何者、此人如キ制度ハ、君主ヲシテ、義務ノ必守ラサル可ラサル所以ヲ辨識セシメ、以テ大ニ其心ヲ獎勵スルニ足レハナリ、
 〔第七〕英國ノ國家學者、國君ノ國憲憲法及ヒ慣用法ヲ遵守スヘキ義務ト、其不保任ノ制度ト、全ク矛盾セサル理ヲ、明示セント欲シテ、國君ハ敢テ不正ノ事ヲ為ス能ハスト云ヘリ、去レ凡全ク取ルニ足ラス、蓋此語ノ意、國君ヲ以テ、完全具備一點ノ過誤ナキ人ト為ス者ニシテ、猶加特力教徒

欲スルハ、譬ヘハ猶霧霞ノ上ニ、宮殿ヲ造ルカ如
 シ、其危殆固ヨリ言ヲ俟タス。○君主若一小事ヲ
 モ為レ能ハサレハ必、又一不正ヲモ為レ能ハサ
 ヲ可シ、君主木偶ニ同シクシテ、全ク他人ノ為ニ、
 其權ヲ竊マル、歟、否ラサレハ、君主自己ノ意思
 ヲ以テ、國家ノ治安ヲ謀ラント欲スルモ、力及ハ
 サルカ為ニ、遂ニ他人ニ、其權ヲ奪ハレテ、帝ニ國
 事ノミナラス、亦一身ノ事スラ、尚之ヲ自在ニ為
 ス能ハサルニ至レハ、君主ハ敢テ不正ノ事ヲ為
 ス能ハスト云フモ可ナリ、去レテ事體此ノ如キニ

至リテハ、君主ノ君主タル權カハ、全ク亡滅シテ、
 一ツモ存スル所ナシ、故ニ「君主敢テ不正ノ事ヲ
 為ス能ハスト云フ語言ハ、君主タル者、國家ノ政
 權ヲ一身ニ統一スル所以ノ條理ト、全ク相矛盾
 スルヲ明ニシテ、且、君主、及、國家ノ為ニ、甚、弊害ア
 リ、君主ハ敢テ不正ノ事ヲ為ス勿レト云ヘハ、真
 ニ當理ノ確言ト云フ可シ、

〔第八〕是故ニ君主不保任ノ法ヲ立ルヤ、決シテ君
 主ノ身、完全具備シテ、一點ノ過誤ナキヲ以テス
 ルニアラス、唯方今ノ世、君主ノ上ニ位シテ、之ヲ

審判スル所ノ法院ナキヲ以テナリ且又君主ヲ
 罪犯人トシテ之ニ刑ヲ加フルルハ之ニ由テ生
 スル所ノ國家ノ災害タル實ニ君主ノ一二暴業
 ヨリ生スル弊害ヨリモ更ニ甚キヲ以テナリ○
 若レ各國ノ上ニ位スル大法院アリテ能ク各國君
 主ノ正邪曲直ヲ審判シ且ツ又此審判ノ為ニ國
 亂ノ生スルコトアルニ方リテハ能ク之ヲ制歴ス
 ルノ權カヲ備フレハ中古羅馬獨ロミスマ獨ドイッ乙エ合國ノ制ニ
 倣テ不保任ノ法ヲ廢スルモ之ニ由テ災害ノ生
 スルコト決シテ有ル可カラズ後世法理真ニ開明

スルニ至レハ遂ニ能ク此ノ如キノ法モ行ハル
 可久且之ニ由テ君主ノ權カモ亦強大トナルニ
 至ル可シ蓋總テ保任ノ法ハ人ヲシテ邪惡ヲ為
 サシメサルニ足ルノミナラス却テ亦舉措處分
 又自由ニナサシムルノ良法ナレハナリ○英國
 ニテハ國君不保任ノ法ヲ立ルトイヘ凡其ニ
 ステルヲ舉ルニ方リテハ必ス巴力門多數ノ信ス
 ルト否トヲ視テ然後ニ之ヲ舉久然ルニ北亞米
 利加ニテハ大統領保任スルノ法アレ凡其ニ
 ステルヲ任スルニハ敢テ代國府ノ信否ヲ窺ハ

スシテ自由ニ之ヲ舉ク又佛國ニテハ曾テ不保
任ノ權ヲ握リタル君主スラ為シ能ハリリシ事
ヲモ保任ノ義務ヲ負ヘル大統領ハ却テ能ク自
由ニ處分シ得タリキ、

○路易那破倫按那破倫第一千八百五十二年

嘉永五年一月十四日ノ布告書ニ左ノ旨ヲ述タリ

曰ク君主不保任ノ法ハ嘗テ三次ノ顛覆ニ於
テ滅絶セシ者ナルヲ猶此ノ如キ制度ヲ立テ
之ヲ國憲ニ載スルカ如キハ實ニ民心ヲ欺ク
者ト云フ可シト去氏佛國ニ於テモ亦保任ノ

法決シテ真ノ制度ト稱スルニ足ル地步ヲハ

君主及國家共ニ天神ニ對シテ其所為ヲ保任セ
サルノ理ハ決シテアルヘカラス且人世ニ於ケ
ルモ一時ハ能ク其所為ノ非ヲ掩ヒ得ヘキモ永
世遂ニ之ヲ匿ムヲ能ハサルハ必然ノ理ナレハ
君主不保任ノ規律ハ實ニ君主國ノ條理ニ於テ
緊要ノ事ト云フ可カラス止方今列國法未完全
ノ地位ニ至ラサルカ故ニ君主保任ノ法ヲ用フ
ル片ハ之ニ由テ國家ノ大騷亂ヲ生シ其害却テ

不保任ノ法ヲ用フルヨリ起ル所ノ害ヨリモ、更ニ倍蓰センコトヲ恐ル、カ為、已ムヲ得ス、不保任ノ法ヲ用フルナリ、但不保任ノ法ト雖、決シテ全ク限界ナキニハアラス、必之ヲ限制スル者ナシト云、可ラス、其故ハ何ゾヤ、君主實ニ此權利ヲ特ニ苛酷暴虐ヲ恣行スルキハ、臣民敢テ之ニ恭順セス、遂ニ顛覆ヲ謀リ、以テ嚴罰ヲ君主ニ加フルニ至レハナリ、

第九方今各國皆共ニ君主不保任ノ制度ヲ用フルハ、羅馬ノ國法ニ同シト雖、又別ニミニステ

ル保任ノ制ヲ立テ、以テ君主不保任、弊害ヲ救フカ故ニ、羅馬ノ法トハ全ク同シカラス、立憲國ニ於テハ、君主政令ヲ施行スルニ就テ、必ニミニステルノ輔翼ヲ假ラサルヲ得スト為ス、是ニ於テミニステル必政令ヲ保任スルノ法ヲ立テ、政令若國憲及憲法ニ悖戾スルトアルキハ、則ミニステルヲ以テ、必其罪ヲ負當セサル可ラサル者ト為ス、是ヲ以テ不保任ノ權利ヲ有セル君主モ、亦此法ノ為ニ牽制セラレ、自ラ不正ヲ為ス能ハサルニ至ルナリ、蓋ミニステルナル者、君主

ノ自ラ為セル不正ニ代テ甘シテ其罪ヲ受ル者
ハ殆ト希ナルニ由テナリ、○輓近スウエレ子
テートノ理大ニ開明セレ以降、古時日耳曼ニテ
用ヒタル君主保任ノ制度ノ非ナルヲ知テ、遂ニ
之ヲ廢シ、之ニ代ヘテ、君主不保任ノ法ト、ニニ
テル保任ノ法トヲ並用スルニ至レリ、此法創立
セレ以来、君權強大ニ過キテ、其限界ヲ踰越スル
カ如キ弊熄ミ、君主及其寵遇ヲ得タル黨與ニ至
リテモ、生手敢テ違法戾典ノ舉アルヲナク、且ッ
ニステルモ亦現在ノ形勢ニ著眼シテ、能ク細心

ニ事ヲ處置スルニ至レリ、故ニ此法アリト雖モ、
ニニステル罪ヲ得テ、審判ヲ受ルカ如キハ、世甚
タ罕ニシテ、却テ君主及ニニステル等ヲ獎勵シ
テ、心ヲ其義務ニ竭サシムルニ至レリ、○但レ又此
法立シカ為ニ、君主ナル者、保任ノ義務ヲ抱ケル
ニニステルノ輔佐ヲ假ラスシテ、恣ニ事ヲ施設
シ、且ッ臣民モ亦、自然ニ之ヲ默許シテ、其非ヲ論セ
サルカ如キ弊害、全ク無シトハ云フ可カラズ、○
又時アリテハ、此法アルカ為ニ、ニニステル等ノ
威權、却テ君主ニ超過シ、君主ハ徒ニ靈器ヲ擁キ

テ、實權ハ全クミニステルノ掌中ニ歸スルカ如キ弊害モ、亦全ク無レトハ云フ可カラズ、卷之四第一款、及卷之七、第五節既ニ一二ノ國ニ於テ、此ノ如キ弊害ノ生セシマアリキ、

○佛國ニテ、一千七百九十三年寬政五年八月十日

ノ事按此時佛國ニ顛覆起リ、暴黨此日ニ於テ

ルニ方リ、衆人、國君按路易第六ナリ、己ヲ固ウセン

カ為、顛覆黨ヲ敵視セル者ト、嘗テ相結ヒシヲ

知リレ後、コンヘントノ名、議會ニ於テ、君主保任

不保任ノ制度ニ就テ、盛ニ激論アリレカ、暴黨

遂ニ此議ヲ決シ、國君ヲ黜ク併セテ王位ヲ廢

シタリ、按此時佛國ニ顛覆起リ、暴黨此日ニ於テ

〔第十〕方今ノ諸民主國ニテハ、政府ノ主長、及其職

負、共ニ必ス保任スルノ規律ヲ用ス、

私法ノ事ニ於テハ、主長職負、兩ナカラ皆尋常ノ

法院ニ於テ、之ヲ審判シ、且ツ刑法ノ事ト雖モ、尋

常ノ罪科ハ、必ス通例ノ法ヲ以テ審判ス、○私事ニ

於テ不正ヲ為セルニ方リテハ、其審判ノ法、全ク

尋常ノ私入ニ異ラス、職官ノ故ヲ以テ、決シテ他

法ヲ用フルヲナシ、但官事ノ不正ヲ以テ、之ヲ審

判スルニ至リテハ、民主國ト雖モ、亦必別法ヲ用
 フ、蓋シ職官ノ威權、是ニ由テ減殺センコトヲ恐ル
 ルナリ、若シ此ノ如キ官事トイヘ氏、必常立ノ法院
 ニ於テ、其審判ヲ行フハ、法院ノ威權自ラ政府
 ニ超過スルニ至リ、國家ノ序次、甚錯亂スト云フ
 可久、且常立ノ法院ハ、政務ニ密涉セル事件ニ就
 テ、審判スルニハ堪ヘサル者ナリ、卷之七第六款
 ヲ參看セヨ
 事理此ノ如キヲ以テ、瑞士國ノ國憲ニテハ、政府
 其政令ノ施行ニ就テハ、專ラ立法府ニ對シ、保任
 スルノ規律ヲ立ツ、即政令權柄ヲ掌握スル徒、立

法權柄ヲ掌握スル者ハ、審判ヲ受ルナリ、○又北
 亞米利加ニテハ、統領及其他ノ職員、罪犯アルニ
 方リテハ、下院之ヲ訴ヘテ、上院之ヲ審判スルノ
 規律ナリ、○

○ 譬ヘハ、左リフ邦〔按〕瑞士合邦ノ邦憲第十四
 條ニ云、若シ邦憲、憲法、或ハ職務ニ悖戾セル處置
 アルハ、ゴローセル、ラリト〔按〕立法府ヨリ、レギ
 ルングストライト〔按〕政府及ヒオーベルゲリフト
〔按〕上院ニ將來ノコトヲ戒諭シ、或ハ其職責ヲ名
 テ、之ヲ審判スト、○又瑞士合邦ノ國憲第七十

四條ヲ參看ス可シ、

○亞米利加合邦ノ國憲第一款第三款第三條ニ云、獨

セナート〔按〕即上ノミ國事ニ就テ審判スルノ

權アリ、同上第二款第四條ニ云、統領、副統領、及

其他諸政官、叛國ノ罪ヲ犯シ、或ハ賄賂ヲ貪リ、

又ハ其他ノ重罪ヲ犯セルカ為ニ、下院之ヲセ

ナートニ訴フルキハ、其職ヲ放ツ可シト、○又

佛國一千八百四十八年嘉永元年ノ國憲第六十八

條ニ云、統領及ミニステルハ、自己ノ職掌ニ係

レル事ハ、統テ之ヲ保任スヘシ、又九十一條ニ

云、〔按〕議會ヨリナチオナールヘルサムルンダ〔按〕議會ヨリ

統領、或ハミニステルノ罪狀ヲ訴フルハ、オ

ーベルステル、ゲリフツホフ、〔按〕最高之ヲ裁決

ス可シ、敢テ之ヲ他ノ法院ニ委スルヲ無ル可

シ、又九十二條ニホーベルステル、ゲリフツホ

フノ官員ハ、法官五名、ゲスラル子〔按〕重刑ヲ施

民人中ヨリ、徳望アル者數員ヲ舉テ、之ニ其罪

ノ有無輕重ヲ商議セシム、之ヲゲスラル子〔按〕

第十四款

丙 施政ノ權利、レグレギ
外權、ニダ、ナヘルトレフ、アダセシツ

第二國家ノ元首ハ、國家ニ代リテ、其尊榮權利、及
威カエ、他列國ニ示ス者ナリ、而テ其規律ニ於テ
ハ、方令君主國民主國共ニ、大抵相同シ、唯君主ノ
威權ハ、民主國元首ノ威權ニ比スレハ更ニ大ナ
ルノミ、
是故ニ公使ニゲサテ、外國ニ差遣シテ、之ヲ信任シ、
或ハ外國ノ公使ヲ受ケテ、之ヲ認ムル等、内外ノ
公事ヲ掌ル權利、全ク元首ニ在リ、去レ氏君主敢テ

ミニステル 接外務ナリ、ノ輔佐ヲ假ラステ、公

使ヲ選任シ、或ハ其章程ヲ設立スルヲ許サス、但
ミニステルノ舉ント欲スル者ハ、君主之ヲ信セ
スト雖、強テ聽從スルノ理ハ、決レテ有ルナ
ク、又ミニステルノ為、ニ阻攔セラレテ、親ラ我公
使ニ接遇スル能ハサルノ理モ、亦決レテ有ルヘ
カラス、加之、立憲國ノ法ニテハ、君主敢テミニス
テルノ補佐告諭ヲ俟タスレテ、自ラ内外ノ情實
ヲ觀察スルヲ許ス、唯内外交際ノ事ヲ決定スル
ニ方リテハ、必スミニステルノ允可ニ賴ラサルヲ

得ス、○君主、外國ト事ヲ論定スルカ如キハ、必ス
 ニステルノ輔佐ヲ假ルニアラサレハ、之ヲ舉行
 スルヲ許サス、去レ外國朝廷若クハ其政府ノ情
 實、事體ニ就テハ、君主直ニ其報告ヲ得テ、毫モ妨
 ナレ、
 國內ニ於テ君主ヲ除クノ外、自ラ外國ノ公使ヲ
 認ムル者、絶テ是、有ラス、君主ノ信任ヲ受ケスレ
 テ、能ク公使ノ職掌ヲ施行スル者、亦絶テアル
 ナレ、總テ列國交際ノ大事件ハ、獨、國家ノ元首、及
 其全權ヲ委任セラレタル者、能ク之ヲ掌ルヲ得

唯既ニ條約レハ、ト慣用法、ムルコ、或ハ憲法上、預
 載定セル民間私事、トサリハ、及、警保事務イカリ
ト、按國家、及、民間ノ安寧平穩等ヲ警保ニ属セル
 小事ノ處置ニ至リテハ、列國下等ノ官吏、互ニ國
 界等ニ相會シテ、專對議定ス、○但、縱令此ノ如キ
 小事ト雖、元首或ハ自ラ之ヲ措置セント欲ス
 ルキハ、下等官吏ノ之ヲ掌ルヲ停ムルノ權アリ、
 即、卑權ハ高權ニ對シテ、其勢力ヲ失フナリ、
 〔第二〕君主ハ、宣戰講和ノ權利ヲ掌握ス、但、此事ハ
 全國家ノ掌ル所ナレ、君主必ス之ヲ一身ニ統轄

スルナリ、故ニ黨人或ハ軍隊、君命ヲ俟タスシテ、
能ク外國人ト争端ヲ開ク可シト雖、敢テ戦争
ヲ宣告スルヲ得ス、又君命ヲ俟スシテ、能ク休戦
スヘシト雖、敢テ和ヲ講スルヲ得ス、○若シ立法
府ヲシテ、直ニ宣戦講和ノ義ニ參預セシムルハ
ハ政府ノ權、殆ト立法府ニ移ルニ至ルヘシ、故ニ
歐洲各國ニ於テハ、實ニ害アリトス、蓋シ立法府ニ
テ、此等ノ商議ヲ為スハ、動モスレハ敵國ノ利
トナルコト多ク、自國ノ利トナルコトハ、殆罕ナリ、○
今日下ノ事ニ應ル、之ヲ處置スルニ方リテハ、必

其情實、事體ヲ沈思熟慮シ、純一ノ意見ヲ以テ、之
ヲ決定シ、而テ議既ニ決定セハ、時ヲ費サス、神速
ニ之ヲ舉クルコト、甚緊要ナリ、然ルニ立法府ノ如
キハ、必、黨論相分レ、商議輒ク一決セサルカ故ニ、
此ノ如キ時ニ當テ、其情實事體ヲ沈思熟慮シ、純
一ノ意見ヲ以テ、之ヲ決定スルコト甚難ク、且、既ニ
決定スト雖、其神速ニ舉行スルモ、亦甚難シ、
但、君主宣戦講和ノ事ヲ、獨決スルヲ得ルハ、君
主ノ權甚強大ニ至ルハ、論ヲ俟タス、而シテ其弊害
ヲ數フレハ、君主若シ恣ニ無名ノ師ヲ興シ、或ハ無

謀ノ戰ヲ開テ、若干ノ軍費ヲ要スルヲアレハ、民人必之ヲ償フノ義務ヲ負ハサルヲ得ス、是時ニ至リ、立法府ミニステルノ罪ヲ舉ケ、之ヲ罪スルモ、既ニ許多ノ人命ヲ殘ヒ、若干ノ財用ヲ費シ、及ニ國家ノ安寧ヲ傷リシヲ如何セン、且、勢既ニ此ノ如クナルニ至リテ、軍費ヲ納ル、ヲ肯セサルハ、義ニ於テ為ス可カラサル所ナリ、但、假令、義不義ハ措テ論セサルモ、若、之ヲ肯セサルノ機アルハ、君主兵力ヲ以テ、暴ニ臣民ニ迫ルヲ如何セン、蓋、獨、君主宣戰講和ノ權ヲ專ラニスル、其弊ノ底

ル所大凡此ノ如シ、實ニ輕忽ニ考フ可カラス、去、又政府此ノ如ク無名ノ軍ヲ興シ、無謀ノ戰ヲ開クニ方リテハ、立法府能クミニステルノ罪ヲ責問スルノ權利アリ、此權利アルノ利タルヤ、實ニ少カラス、蓋、立法府此權利ヲ握ルカ故ニ、政府亦能ク深謀遠慮シテ、敢テ輕舉妄動ノ事ヲ為サス、且、立法府ノ衆論、政府ト相悖ルト甚シキハ、能クミニステルヲ退黜セシムルニ足ル、故ニ是ニ由テ、遂ニ能ク廟謨ノ方向ヲ變改セシムルトアリ、按、蓋、君主宣戰講和ノ權利ヲ掌握スルノ弊害、必、無シト云フ可ラス、去、若、立法府ヲ

テ此權利ニ預ラシムルキハ、其弊害更ニ甚シ、是故ニ立法府ニ此權利ヲ與ヘサルナリ、講和ノ事ハ、嘗ニ戦争ヲ罷ムルノミニ止マラス、又此事ニ由テ、兩國ノ際、将来永續スヘキ規律ヲ立ルヲ屢之アリ、是故ニ講和ノ約、又一種ノ國約ルスタラツヘトナリ、而テ國約ノ規律ニ由テ限制セラレ、

民主國ニテハ、宣戰講和ノ權若ク政府ニアルキハ、是ニ由テ政府ノ威力、甚ク強大ニ至レテ、恐ル、是故ニ北亞米利加合邦ノ國憲ニテハ、宣戰ノ權利ヲ以テ、コングレス（按）立法府ニ委子、而テ講和ノ

權利ヲ以テ、統領ニ委子タリ、但、預メセナリト（按）上院ナリノ決議許可ヲ得サレハ、之ヲ施行スルヲ得ス、蓋、此法ヲ立ルノ意タルヤ、戰端ヲ開クヲ以テ、民主國ノ為ニ甚ク害アリト為シ、和ヲ講スルヲ以テ甚ク害ナレト為シ、且、宣戰ノ事ハ、勉メテ為シ難シ、講和ノ事ハ、勉メテ為シ易スルヲ以テ、良善ノ事ト為シタルナリ、○瑞士合邦ノ國憲ニテハ、宣戰講和ノ二權利ヲ以テ、單ニブンデスヘルサム（按）立法府ナリ、ニ委ヌ、

第三、外國ト盟約（按）ラズ、及、國約ヲ結フノ權利、亦

元首ノ自ラ掌握スル所ナリ、縱令^レ元首此權利ヲ施行スルノ全權ヲ握レル國トイヘ^ル、亦自ラ之ヲ限制スル所ナキニアラス、何者、外國條約ト、國內ノ法ト、相關セル規律ニ至リテハ、必^ス立法府之ニ預ラサルヲナク、且^ツ二三ノ國ニ於テハ、其國憲中故^ラニ外國條約ニ關セル規律ヲ載定スレハナリ、○

○瑞典國ノ國憲第十二條ニ云、君主外國ト盟約ヲ結フノ權利ヲ掌握ス、但^レ必^ス預^ル外國事務ヲ掌レルミニステル、及^ヒホフカンツレル（按高官ナリ）

ノ議ヲ聽カサル可カラス、○荷蘭ノ國憲第五十七條ニ云、君主講和ノ約、及^ヒ外國ト諸條約ヲ結フノ權利ヲ握ル、○若^シ條約ノ旨趣、國家ノ大事ニ關ス可^レト思フ^ルアルハ、必^ス之ヲゲ子（按立法府ナリ）ラール、スターテン（按立法府ナリ）ノ兩院ニ告諭ス可^シ、○若^シ歐洲若クハ他洲ニアル所ノ荷蘭ノ版圖ヲ分割シテ、之ヲ外國ニ與ヘ、或^ハ之ヲ外國所轄ノ地ト交易スルノ條約ヲ結フ歟、若クハ此條約中ニ、從來憲法ニ於テ定メタル權利ヲ改革シ、或^ハ別ニ新法ヲ立ル等ノ條件アルハ

憲法論 卷之六 第六節

ハ必ス先之ヲゲ子ラール、スタール、テニ告諭シ
テ、其准可ヲ得ルニアラサレハ、君主恣ニ條約
ヲ結フヲ得スト、

第十五款

丁 施政ノ權利、レギスルト、

内權、イン子レ

施政ノ權柄ハ、徒ニ各殊ノ權利ヲ集成統合セル
者ニハアラス、實ニ一點ノ中心ニ、充積圓滿セル
國權ハ、分レテ各殊ノ權利トナリ、煥然ト諸方向

ニ於テ、發耀スル者ナリ、譬ハ猶一點ノ光暉、其
線ヲ六隅ニ映射シテ、鏡ス所ナキカ如ク然リ、○
君主國ニテハ、君主乃一點ノ中心トナリテ、國權
ヲ一身ニ收攬撮合ス、故ニ君主ハ、立法權柄ニ於
テ、帝ニ示案ノ權利イニチアチハ、接法案ヲ立
ムルノヲ握ルノミナラス、兼テ亦決定ノ權利イニチアチ
ヲ決定シテ、接立法府ノ商議スル所ヲ握ル、故ニ獨
君主法案ヲ查定シテ、之ヲ真ノ憲法ト為シ、而テ
直ニ之ヲ公告ス、是、君主乃國家ノ中心トナリテ、
昭々タル一致和同ノ徳光ヲ、其身上ニ彰ス者ナ

國法論 第六卷 第六節 甲

リ○君主ハ、立法府ノ首領ナルヲ以テ、此府ノ議
 定ニ於ケル、或ハ決定シ、或ハ決定セサルノ權ヲ
 リ、兼テ又施政權柄ヲ掌握スル者タルヲ以テ、其
 決定セル法ハ、直ニ之ヲ公告シ、以テ臣民ヲシテ、
 之ヲ遵奉セシムルノ權アリ、卷之五第十一款然
 ルニ民主國ニ於テハ、此制度全ク相異リ、例ヘハ
 北亞米利加ノ如キハ、統領決定ノ權ヲ握ルト雖
 氏、君主國ノ全キカ如クナラス、唯大ニ局促セル拒
 絶ノ權利拒絶スルノ權利ナリ、ヲ掌握スルノミ、
 又瑞士國ノ如キハ、政府絶テ決定ノ權ヲ握ル能

ハス、唯示案ノ權ヲ握ルノミ、但憲法ヲ公布スル
 ノ權ニ至テハ、諸民主國ニ於テモ、全ク政府ニ在
 リ、
 其他君主内權ヲ施スノ權利ヲ以テ、決ニテ單ニ
 行法權柄ホルナリトト、為ス可ラス、必、獨立獨
 行シテ、能ク國家ノ秩序ヲ整理シ、臣民ヲ指揮シ、
 兼テ又保護シ、及ヒ監督誘導スル諸權柄等、悉皆
 君主ノ掌中ニ在リ、○凡ソ國家ノ安寧ヲ保テ、及
 ヒ諸權利ヲ保護スルニ就テハ、殊ニ日々轉化ス
 ル所ノ形勢ニ、仔細ニ著眼スルヲ、必要ナルヲ以

天是等ノ諸件ハ皆專ラ君權ノ負荷スル所ナリ
 故ニ憲法ナル者ハ唯日常政令權柄ノ發動スル
 區域ヲ定メテ決シテ之ヲ超ユルヲ能ハサラレ
 又且政令施行ノ方向ヲ與ヘテ常ニ之ヲ失ハサ
 ラシムルニ在ルノミ現ニ政令ヲ施行スルノ事
 ニ至リテハ獨君主能ク事情ヲ酌量シテ自由ニ
 之ヲ為スル固ヨリ當然ナリ
 是故ニ左ニ舉ル所ノ數件ハ特ニ君主ノ主持ス
 ル所ナリ

計ハ第一授官ノ大權ハ君主ノ所ナリ故ニ國
 君主ハ國家諸職官ノ資テ初ムル所ナリ故ニ國
 家諸職官一モ君主ノ授任ニ由テ出テサル者ナ
 久亦君主ニ從屬セサル者ナリ往昔既ニ此事ノ
 緊要ナル理ヲ知り是ニ由テ大ニ國家ノ和同ヲ
 鞏固セシカ氏實ニ此理ノ明亮トナリシハ全ク
 近今ノ君主國ニ在リ又此理ニ循テ諸職官中互
 ニ亦其等級ノ高卑ニ由リ次第ニ高等ニ從屬ス
 ル固ヨリ當然ナリ
 立憲國君主握ル所ノ授官ノ大權ハ其規模甚大

ナリ、官等高シレテ、愈、君位ニ近ケレハ、君主ノ權
 愈、自由ニ之ヲ黜陟スルヲ得、殊ニニニステルノ
 如キハ、君主ヲ輔佐シテ、其政令ニ參與スル者ナ
 レ、之ヲ黜陟スルハ、獨、君主ノ自由ニスル所ナ
 リ、○賢明ナル君主ハ、唯自己ノ偏見ヲ用ヒ、或ハ
 好惡愛憎ニ由リテ、ニニステルヲ舉ルトナク、必、
 先、國家ノ為ニ謀リ、實ニ其任ニ堪ユヘキ人物ヲ
 選任スルヲ本旨トシ、且、政府ト立法府ト、其間
 能ク相和スルヲ甚、緊要ナルカ故ニ、必、立法府ノ
 信ヲ得タル者ヲ、選任スルヲ以テ本旨トスルハ、

固ヨリ論ヲ俟タス、去レ、君主立法府ノ信不信ヲ
 窺ヒ、或ハ好惡等ニ隨テ、ニニステルヲ黜陟スル
 ノ義務ヲ負フカ如キハ、斷然アラサル所ナリ、唯
 現任ノ立法府若、ハ將來任スヘキ立法府ニ、信セ
 ラルヘキ人物ヲ撰テ、之ヲニニステルニ任スル
 ハ、則、政チホクノ巧クナル者ナリ、何者、立法府ノ政府
 ヲ惡クシ、甚クニ過ルキハ、之ニ由テ、政府ノ威權
 大ニ痿痺振ハサルニ至レハナリ、但、君主敢テ立
 法府ノ薦舉ヲ希フニアラス、必、自ラ舉任スルナ
 リ、○舊ニニステルヲ罷メ、新ニニステルヲ舉ル

ニ方リテハ、君主之ヲ舊ニニステルニ議シ、其連署ヲ得テ之ヲ舉ルヲ通法ナレ氏、此事決シテ必要ノ法ト云フニ足ラス、若舊ニニステル、君主ノ舉ント欲スル人物ヲ肯セサルヲアラハ、新任スル所ノミニステルヲシテ、自ラ其選任ニ連署セシメテ可ナリ、舊ニニステルノ肯ンセサルカ為、君主自ラ舉ント欲スル人物ヲ、舉ル能ハサルノ理ハ、萬々有ルヲナレ、立憲國ノ法ニ於テハ、ニステル選任ノ事ニ就テモ亦之ヲ保任スル者一人アレハ、則足レリトス、

其他ノ官負ヲ選任スルニ至テハ、君主獨之ヲ專ニスル能ハス、必^スニニステルノ贊輔ヲ假ラサルヲ得サルナリ、但^シニニステルノ薦ムル所ノミヲ取テ之ヲ任スルヲ要スルニアラス、又能ク必^ス其任ニ堪ユヘキ者アルヲ知ラハ、自ラ之ヲニステルニ詢リ、或ハニニステルノ薦ムル所、若自己ノ意ニ適セサレハ、之ヲ拒ム、固ヨリ自由ナリ、○能ク注意シテ、此ノ如キ權ヲ施行シ、以テ其任ニ堪ユヘキ人物ヲ簡ンテ、之ヲニニステルニ任スルハ、古來賢明ノ君主ノ、獨能ク為ル所ナリ、故

ニ縱令君主他ニ如何ナル權利ヲ握ルモ、唯之ニ由テノミ、大ニ國家ノ安危盛衰ヲ生スルニ至ラズ、大ニ國家ノ安危盛衰ヲ生スル所以ノ者ハ、唯君主ノ聰慧ト、否ラサルニ由ルノミ、
 合衆國ノ統領、其諸官員ヲ選任スルノ制度モ、大概亦之ニ同シ、唯別種樞要ノ職官ヲ選ムハ、統領獨之ヲ授任スルヲ得ス、必先之ヲセナト院ナ上
 リ、ニ諮リ、其許可ヲ得サル可ラス、但、下等ノ官員ヲ選任スルニ至リテハ、按西院此權ヲ以テ、單ニ統領或ハ法院ツケ若クハ諸省ノ

長官ニ委附ス、○瑞士國ノ法ハ、諸職官ヲ授任スルノ事ニ於テ、大ニ政府ノ權ヲ限制シ、多クハ代國府、若クハホルクヲシテ選任セシム、但、此制度アル所ハ、之ニ由テ、遂ニ諸職官中ニ朋黨起リ、動モスレハ、政府ノ一和ヲ傷リ、且、政令諸務ヲ施行スヘキ諸官員、皆上權ヲ侮慢シテ、之ニ恭順セサルカ故ニ、政府ノ氣力遂ニ痿痺シテ、振ハサルニ至ルノ害アリ、甚恐ル可シ、
 ○北亞米利加合邦憲ブンデスヘルムス第二章第三條ニ云、統領セナトト議シテ、左

ノ諸官ヲ授任ス、即チ公使、及其他外國ニ遣スヘ
キニニステル、按上ニ云フ所ハ、相異ナリ、ニニ
ステルトハ、相異ナリ、ニニ
コンスル、
按通常領事 并ニ上等法院ノ法官、其他未曾テ
國憲、或ハ憲法ニ於テ、授任ノ制度ヲ載定セサ
ル諸職官等是ナリ、但、按此諸職官ト雖、按コ
ンダレスニテ、樞要トセサル卑官ナレハ、統領
及、法院、或ハ諸省ノ長官等ニ命ヲ傳ヘテ、之ヲ
授任セシム可シト、○又佛國一千八百十八年
嘉永元年ノ國憲第六十四章ニ云、統領自由ニニ
ステルヲ黜陟ス、但、其他高官ノ黜陟ハ、之ヲ

ニステルニ議シ、卑官ハ其省ニニステルノ建
白ニ因テ、之ヲ黜陟ス可シト、

第二 授譽ノ大權

貴爵、按世襲ノ爵、按通例 勲爵、按軍事、及ヒ學術等ニ於
テ、非常ノ勲功ヲ奏セシ者ニ與ル、按品階、按右ニ爵ノ
ル、按品階ト稱スル者アリ、例ハ英國ノ如キハ、
外ニ、品階ト稱スル者アリ、例ハ英國ノ如キハ、
上高等教士ヨリ下雇夫ニ至ル迄、六十ニノ品階
アリ、及ヒ稱號按例ハ皇國ノ殿下、閣下等ノ如キ者
并ニ官名ヲモテ、按後モ猶官名ヲ与ヘ置クアリ、
吏ニハ、退職ノ後モ猶官名ヲ与ヘ置クアリ、
等ノ如キ、總テ臣民ノ名譽顯榮ヲ表スル者ハ、通
常君主ノ授クル所ナリ、臣民ノ勲勞ヲ鑒定シテ、

之ヲ敬重スルハ、實ニ君主ノ美麗ナル特權ト云
 フ可シ、君主此一難術（按即臣民ノ勲勞ヲ鑒定シテ、之ニ爵位ヲ授ルヲ云）
 ヲ舉行スル、其宜シキヲ得レバ、大ニ臣民道義
 ニ進ムノ心ヲ獎勵シ、且ツ臣民ヲシテ、實ニ愛國
 ノ志ヲ奮起セシムルニ足ル、蓋シ此ノ如クナル
 片ハ、天神ノ好シテ善徳ヲ賞スルノ心ニモ、亦能
 ク協合スト云フ可シ、○然ルニ二百年以來、（延寶天和）
 降、各國君主、恣ニ濫賞ヲ行ヒシヨリ、其弊風今仍
 革マラス、之レカ為ニ播紳家ノ風俗習慣頽敗シ
 テ、其為ス所兇戲ニ異ナラス、遂ニ真ニ國家ノ為

ニ其身ヲ勞セント欲スル者ナキニ至レリ、故
 以テ賢君英主時ニ世ニ出テ、此弊ヲ矯メント欲
 スルモ、陵夷ノ久レキ之ニ脈スル者多カラサレ
 ハ、又如何トス可ラス、豈歎ス可キノ極ニアラス
 ヤ、既ニ歐洲大地ノ數國ニテハ、君主臣民ニ賜フ
 所ノ榮譽ハ、却テ侮辱ノ表記ノ如ク、若シ此榮譽
 ヲ得テ、高貴ノ人トナルハ、即其負罪ノ明證ヲ公
 示スルカ如ク見ユルニ至レリ、○今世ハ漸ク虚
 フ賤シシ、實ヲ貴ムノ時トナレハ、君主此權利ヲ
 施スニ於テモ、古時ノ如ク先能ク其勲勞ノ虚實

ヲ鑒定シテ、然後ニ之ヲ施行スレハ甚々可ナリ、
決シテ全ク此權利ヲ廢棄スルヲ要セス、

○那破倫第一世カエーレンレギラン〔按〕勲爵ナリ、

ヲ設立セシハ、蓋シ能ク此理ヲ知レハナリ、既

ニ一千八百四十八年ニ於テ、嘉永元年佛國民主政

體ヲ復セシ時ニハ、衆論頗ル貴爵ヲ惡ミシカ

ル、其國憲第百零八章ニ、仍レ此エーレンレギラン

ンヲ存スル旨ヲ記載セシハ、那破倫ノ卓見ヲ

證スルニ足ル、蓋エーレンレギランノ如キ勲

爵ノ具存スルハ、自ラ人々榮譽ヲ貪ルノ情

起リテ、頻リニ之ヲ求メント欲スルニ至ルハ

決シテ疑フヘキニアラス、去レル今日ニ在テ

ハ、人性未タ全ク此情ヲ脱スルニ至ラス、加之

此情却テ人々ノ相競フテ、勲功ヲ奏スヘキ一

具トナル者ナレハ、今嚴ニ此情ヲ奪ハンヨリ

ハ、寧之ニ良好ノ目的ヲ與ヘテ、以テ立功ノ一

要具ト為スヲ善ントス、○那破倫カレントハ、

レナニ於テ著セル書中ニ、勲爵ニ就テ左ノ如

ク云ヘリ、曰「太古ノ善良ナル民ヲ治メント術ヲ

取テ、以テ今時ノ老衰セル民ヲ治メント欲ス

ルハ、甚不可ナリ、今時ノ民、專ラ國家ヲ憂テ、一身ヲ顧ミサル者ハ、實ニ百千萬人中僅ニ一二人ニ過キス、其餘ハ皆自己ノ身ヲ愛シ、自己ノ利ヲ貪リ、自己ノ榮ヲ謀ルニ汲々タル者ノミ、凡、工人ハ、其己ニ属スル所ノ材ヲ、恰好ニ用フルノ術ヲ知ラサル可ラス、余曾テ君主政體ヲ恢復シ、勲爵稱號等ヲ復興セシハ、余カ秘策ニシテ、全、此理ニ出ルナリ、○□佛國今世ノ開化ヲ考フルニ、民人各衆人ノ為ニ尊崇セラレ、ヲ欲シ、且ツ他人ノ為ニ尊敬セラレ、徒々自ラ

亦尊敬スルヲ許ス、一般ノ情意ナリト、按以上那破倫ノ○凡ソ稱號ヲ好ムノ情意アルハ、支那人ヲ除クノ外、獨乙人ヲ以テ最モ盛ナリトス、然ルニ一千八百四十八年、嘉永元年フランクホルトニテ獨乙各國會議ノ時ニ於テ、其代議者等職掌ヲ帶ヒサル稱號按職掌ナキ官名ニシテ、唯尊稱トナル者ヲ云ハ、必ス廢スヘキ旨ヲ論シタリ、即チ獨乙人甲極ヨリ俄ニ轉シテ、乙極ニ飛行セリ、實ニ驚クニ堪ヘタリ、按獨乙人ハ、素ト稱号ヲ好ムノ情ニ盛ナリシニ、俄ニ此ノ如キ論ヲ立テシハ、全ク元來ノ情意ニ相反スルヲナルカ故ニ、如斯云フナリ、

○〔按〕本文凡ソ工人云々ハ、蓋シ「人君ノ民ヲ治ムルヤ、猶工人ノ工事ヲ營ムカ如シ、工人其エヲ施サント欲セハ、必先ッ己ニ属スル所ノ材ヲ恰好ニ用フルノ術ヲ知ラサル可ラス、人君其民ヲ治メント欲セハ、必先ッ其情意ニ投シテ、之ヲ獎勵スルノ術ヲ知ラサル可ラス、余カ君主政體ヲ恢復シ、勲爵稱號等ヲ復興セシハ、即チ佛人ノ情意ニ投シテ、之ヲ獎勵スルノ秘策ナリキ、ト云フノ意ナリ、當本路者宜シク注目スヘキ所ナリ、

其第十六款 兵馬ノ大權、ホリテハイト、君主ハ軍政ヲ統掌スル所ノ首領ナリ、故ニ親ラ海陸二軍ヲ統轄シ、軍兵ヲ徵募シ、其將校ヲ選任シ、而メ將軍ニ號令ヲ委任シ、城郭堡寨ノ建築ヲ命シ、及ヒ兵器戰艦ヲ監督ス、中古ノ世ニハ、貴戚豪族亦各兵ヲ備ヘタリシカ、此ノ如クナルキハ、兵權大ニ分レテ、國家ノ一致和同ヲ損シ、其害遂ニ國內ノ和平ヲ破ルニ至

ルヲ以テ、今世ハ決シテ此ノ如キヲ許サス、號令ノ一途ニ出ルハ、軍隊ノ勢力ヲ盛ニシ、及ヒ其目的ヲ確定スルニ於テ、甚緊要ナルヲナリ、軍隊ハ、單ニ君主ノ號令ノニニ肅遵スヘキ旨ヲ擔ハシムヘキヤ、將兼テ國憲ヲモ遵奉スヘキ旨ヲ擔ハシム可キヤ、其可否ニ至リテハ、今時仍論說紛然トシテ、未タ一定セズ、君主若シ自己ノ權力ヲ恣ニナシ、國憲ノ條規ト相戾ヘル處置ヲ以テ、其軍隊ヲ使令セント欲スレトアルキハ、此論實際上ニ於テ大關係ヲ生ス、○今他ノ情實ニ關

セシテ、只自由ニ論スルキハ、國憲擔約スルグ
 可キ旨ヲ述フル誓約、文中ニ、軍隊ハ敢テ國
 憲ニ悖戾セル所業ヲ、助ケサル旨ヲ載定スル、
 甚緊要ニシテ、自カラ君主ヲシテ、輒ク國憲ノ規
 律ヲ破ル能ハサラシムルニ足ルカ如シ、去レ
 軍隊ヲシテ單ニ君主ノ號令ニ肅遵スルノニナ
 ラス、亦兼テ國憲ヲモ遵奉スルノ擔約ヲ為サレ
 ムルキハ、軍隊乃チ重複ノ義務ヲ負フノ理ナル
 カ故ニ、軍情自ラ岐分シ、法令自ラ錯亂シ、其一致
 和同破レテ、勢ヒ遂ニ相爭鬪スルニ至ルノ害ア

ルヲ知ラサル可ラス、○軍隊ハ、素、唯號令ヲ奉レ
 テ、一ニ之ヲ肅遵ス可キ者ニシテ、決シテ之ヲ是
 非スヘキ者ニアラサレハ、軍隊自ラ號令ノ善惡
 良否ヲ考思レテ、然後ニ之ヲ遵奉ス可キト、否ト
 フ定ムルヲ許スカ如キハ、甚害アリ、○今世ノ如
 ク、人々自在ニ事ノ善惡良否ヲ評論スルヲ得ル
 ノ時ニ於テハ、殊ニ害アリトス、○軍隊既ニ國憲
 誓約ヲ為スト雖、必、君主ノ號令ヲ嚴奉スルハ、
 決シテ背ク可ラサルノ通法ナリ、唯君主兵權ヲ
 恣行シテ苛政ヲ施スカ如キ時ニ於テハ、已ムヲ

得ス、其號令ヲ拒絕スルヲ善シトス、但、兵士ノ精
 神勇壯ニシテ、昏迷スルトナク、能ク民ノ權利及
 自由ノ理ヲ知ルキハ、縱令ヒ單ニ君主ノニ誓
 テ、兼テ國憲誓約ヲ為サルモ、君主此兵士ヲ用
 ヒテ、民ヲ苛虐スルカ如キトハ、決シテ為レ能ハ
 サル可ク、又軍隊其大元帥スキリトシ、ナル君主ヲ
 尊崇親愛スルノ情深切ナルキハ、縱令ヒ嘗テ國
 憲誓約ヲ為セシアルモ、決シテ君主ノ號令ヲ
 拒絕スルカ如キトハ為サル可シ、君主國憲ヲ
 破ラント欲スル時ト雖モ亦然リ、○英國王ヤ

ヲブ第二世 一千六百三十三年ニ生ノ軍隊ハ、嘗
 テ君主ノ號令ヲ遵奉ス可キ旨ヲ擔ヒレカ氏、遂
 ニ此擔約ヲ破リテ、之ニ敵シ、在位一十六百八十
八年ニ於テ、民顛覆ヲ起シテ、之ヲ攻又佛國デレ
擊セシカハ、王遠ニ佛國ニ奔リタリ、
クトリアル、レギールンダ末ニ、仏國君主ヲ廢
ニ於テ、民主政體ト為セシ後、時ニ於テ其軍隊ヲ
レテ國憲ヲ遵奉スヘキ旨ヲ誓ハシメタレ氏、那
 破倫遂ニ此兵ヲ用ヒテ、此政府ヲ倒シタリ、是ニ
 由テ之ヲ觀レハ、實ニ持ムヘキハ獨リ精神ノ
 決レテ其形貌類擔約ノニハ非ス、

佛國一千八百四十八年嘉永元年ニ、民主政體ヲ
 立テシ時ニ於テスラ、尚此理ヲ善シトシテ、之
 ヲ其國憲第百零四章ニ載定セリ、曰ク、軍隊ハ
 必ス號令ニ嚴遵スルヲ要ス、敢テ其善惡當否
 ヲ論スルヲ許サスト、
 以上論スルカ如クナル故ニ、國憲中ニ、軍隊ノ國
 憲誓約ヲ為ス、本旨ヲ詳細ニ記載スルヲナキ
 キハ、軍隊ノ擔約ハ、唯其職掌當然ノ理ニ由テ、法
 制秩序、及ヒ民人ノ自由ヲ保護シ、敢テ自ラ之ヲ
 傷害セストノ誓約ト視做ス可シ、大元帥ナル君

主一號令ヲ出ス毎ニ軍兵タル者其國憲ニ協
ト否トヲ考テ之ヲ是非スルヲ誓約ノ本旨トス
ルハ甚不可ナリ、軍隊ノ君主ニ恭順スルハ、軍法
ノ大基礎ナルニ、軍隊君主ヲ是非スルヲ得ルハ
ハ、此基礎全ク崩解スルカ故ニ、遂ニ軍隊ノ一致
和同破レテ、互ニ争鬪ヲ起スニ至ル、甚タ恐ル可
シ、○君主出ス所ノ號令ノ國憲ニ協フヲ保任ス
ル者ハ、即ニニステル、按兵部ニ或ハ元帥マ
グチラレシテナリ、其號令ヲ遵奉スヘキ將校及ヒ
兵卒等ハ、決シテ保任ノ義務ヲ負フ者ニアラス、

○但シ若シ誓約ニ就テ、國憲中ニ他ノ意ヲ詳載
シ、以テ軍隊中ニ不和ヲ生スルノ害ハ、君主ノ兵
權ヲ弄スルノ害ヨリモ却テ小ナリトセハ、他ノ
論旨自ラ當理トナル可シ、○

○即瑞典ノ國憲ノ如キ是ナリ、其第三十八章
ニ云、國君ヨリ出ス所ノ號令ハ、其布令ヲ掌レ
ル者之ニ連署シテ保任スルヲ要ス、但シ此者
國君ノ決定スル所、國憲ニ悖戾スルヲ知ラハ、
必之ヲスターツラト按國政ヲ參議スル官ニ質ス可
シ、王若シ猶其決定スル所ヲ遂ケント欲シテ

止マサレハ、敢テ之ニ連署セサルノ權利、及ヒ義務ヲ得ヘシ、但シ此ノ如クナルキハ、此者必、其職ヲ退ク可シ、而シテ其後ライフスステン、デ、按立法府ナリ、其論、是非當否ヲ判決スルニ至ル迄ハ、敢テ再任ス可ラス、去レ其官俸ハ未タ奪フ可ラスト、

君主ハ徒ニ大元帥ノ號ヲ有スルヲ以テ足レリト為ス可ラス、必、親、六軍ヲ統御シ、兵權ヲ以テ實ニ之ヲ一身ニ綜歸ス可シ、非的利第二世按非的利、テハ、ゴロセト称セリ、曰ク、「英明ナル君ハ、必、親ラ六軍

ヲ號令ス可シ、六軍ハ即君主ノ京都ナリ、君主ノ利益ナリ、君主ノ義務ナリ、君主ノ榮譽ナリ、其他千萬ノ事故ニ由テ、君主ハ必、親ラ六軍ヲ號令セサル可ラスト、是故ニ君主ハ必、君主ノ職ヲ以テ六軍ヲ號令スル者ナリ、君主若シ六軍ヲ號令スルノ器アラスレテ、親ラ六軍ニ臨ムキハ、大ニ謀ヲ誤テ、遂ニ六軍及ヒ國家ノ敗亡ヲ速クニ至ル、豈恐レサル可シヤ、凡ソ政府ノ權カス、務メテ微弱ニセント欲スルハ、今世ノ民主國ヨリ甚タ、シキハナシ、是ヲ以テ

政府主長、按類統領若シ兵權ヲ掌握スルキハ、大ニ之ヲ恣ニシテ、其威權遂ニ國君ノ如クナルニ至ラントテ、恐レテ、此念慮ヲ放擲スル能ハス、一統領ヲ主長トセル民主國ニ於テハ、殊ニ然リトス。○是故ニ北亞米利加ニテハ、按事帝ニミルトツ日ニ臨テ、按日臨テ、徵集スル兵隊ヲ編制スルノ權ノミナラス、亦之ヲ徵集シ、及ヒ叛賊ヲ平定スルノ權等、總テ皆コレニ在リテ、統領ハ僅ニ小數ノ常備兵、及ヒ合邦ノ軍艦ヲ都督スルノミ、其他各邦ノミルトツニ至リテモ、按事コングレス之ヲ徵集スルニ

非レハ、統領決レテ之ヲ號令スルヲ能ハス。○佛國民民主國タリシ時ニハ、統領軍隊ヲ調理スルノ權ヲ有セシカニ、親ラ之、カ元帥トナリテ、號令スルノ權ハナカリキ。○瑞士國ニテハ、按事ブンデスヘルサムルンガ按事閉會ノ時ニ於テハ、按事ブンデスラトト按事政府能ク軍兵ヲ徵集スルノ權ヲ握ル、但シ之ヲ使役スルノ時間久シキヲ要スル歟、若クハ徵集スル所ノ兵數二千ヲ超ユル時ニ於テハ、必ス按事ブンデスヘルサムルンガヲ集會セシメ、而シテ此府ノ會議ニテ、軍隊ヲ調理スルヲ

俟ツヲ要ス、

第四 警保ノ大權

總テ國家警保ノ事ハ、帝ニ君主ノ名ヲ用ヒ、其指揮ニ隨テ之ヲ施行スルノミニ止マラス、時宜ニヨレハ、君主親ラ此事ヲ施行スルヲ要ス、但シ其時宜ナル者ハ、殆希ナリ、即國家大危難ノ事起ルニ方リテ、之ヲ救防スルヲ要スル時、若クハ通常警保官吏ノ為メ所ヲ監察シテ、其擅恣ヲ防止スルヲ要スル時ヲ云フナリ、○日常警保ノ事務ニ至リテハ、殆涯際ナシ、決シテ一人ノ能ク為スヘ

キニアラス、故ニ別ニ官吏ヲ置テ、間斷ナク此事務ヲ行ハレム、是故ニ警保ノ理、及ヒ其制ニ至テハ、次卷ニ於テ更ニ詳論ス可シ、（卷之七、第八、第九ノニ款ニ詳論ス、）

第十七款

第五 司法ノ大權

太古中古ノ世ニハ、君主親シク最上等ノ法官トナリテ、獄訟ヲ總掌セリ、是ヲ以テ獨乙帝ハ、獨乙各國君主ノ司法ノ權ヲ保護シ、且ツ之カ嚮導トナ

ナレリ、故ニ帝各國ヲ巡行スル時ニ於テ親ラ其
 法院ニ臨ミ、輒獄訟ヲ掌レリ、而テ是時ニ方リテ
 ハ、地方ノ法院ハ、必ス其權ヲ失ヘリ、
 然ルニ輒近一二百年前ヨリ、此法一變シ、君主決
 シテ獄訟ノ本務ヲ掌ラサルノミナラス、此職務
 ニ關係スル所ノ君權モ亦殆消滅シテ、此職務遂
 ニ全ク法官ノ手ニ移ルトナレリ、但此法官ハ、
 君主ヨリ其職掌ヲ受ケ、且、君主ノ名號ヲ以テ、獄
 訟ヲ掌ル者ナリト雖、必、不羈獨立スル者ニシ
 テ、決シテ君主ノ指揮號令ヲ奉シテ、其職ヲ掌ル

者ニアラス、○是故ニ「獄訟ノ事ハ、悉ク君主ヨリ
 出ツ」ト云ヘル古言ノ意、今世ニ在リテハ、大ニ變
 換シ、且、其意ノ涉ル所モ、甚、限局スルニ至レリ、世
 入動モスレハ、君主ハ、全ク獄訟ノ事ヲ知ラサル
 テ以テ、善シトスル者アリ、果シテ然ラハ、頗ル君
 主國ノ理ニ戾ルト云フ可シ、其故ハ、何リヤ、凡ソ
 國家ノ職官、君主ノ統下ニ屬セサル者、一ツモア
 ル可キ、理ナキニ因テナリ、○輒近ニ至リテハ、
 法官獄訟ノ事務ヲ行フノ實事上ニ於テ、君主ノ
 指揮ヲ遵奉スルノ法ハ、全ク廢亡セリ、蓋、確然々

法律アリテ、緊ク法官ヲ束縛シ、決シテ其擅行ヲ許サ、ルヲ以テ、此ノ如クナルヲ要スルナリ、君主若シ實ニ獄訟ノ事ヲ掌ルキハ、其強大ナル威權ヲ恃テ、遂ニ獄訟ノ公正ヲ害シ、以テ法律ノ正理ヲ紊スニ至ル可シ、○是故ニ立憲君主國輓近ノ制ハ、君主親ラ獄訟ヲ掌ルノ法ヲ廢セシカニ、法官ハ尚君主ヨリ其職掌ヲ受ルト、且、形兒ニ於テハ、必ス君主ニ從屬スルノ規律ニ至テハ、永存シテ亡フルナリ、○〔按〕形兒ニ於テ君主ニ從屬スルニ從屬スルハ、必ス君主ノ對命ヲ遵奉セナル可ラス、故

カニ本文ニ論スル
 ○瑞典一千八百零九年文化ノ國憲第十七章及、廿一章ニ據レハ、其君主親ラ最高等ノ法院ニ參列スルノ權アリ、他ノ立憲國ニテハ、絶テ無キ所ナリ、然リト雖、其他司法ノ權ノ、尚君主ノ掌握ニ在ル者、左ノ數條ニ舉ルカ如シ、
 ①國憲并ニ獄訟ニ就キ、遵守スヘキ憲法ノ區域内ニ於テ、獄訟ノ總規則ヲ示令スルノ權利、君主ノ手中ニ在リ、

回 法官ヲ任シ、其職權ヲ授ルノ權利、亦君主ノ
 手中ニ在リ、但、ケルルタイレルシ、及、グス
ヲル子ニ按共ニ預ル者ナリ、選擇ヲ以テ、獄訟ノ如
 キハ、必、シモ司法ノ職權ヲ有スル者ニアラ
 ス、唯時アリテ、法院ニ列シ、法ヲ論スル者ナ
 リ、故ニ法官トハ、全ク其歸ヲ殊ニス、故ニ君
 主是等ノ者ヲ授任スルハ、必、緊要ノ事ニア
 ラス、加之、獄訟ノ事ハ、務テ公明正大ヲ貴フ
 ト云フノ理ニ據テ、之ヲ考フレハ、則君主是
 等ノ職任ヲ任スルハ、尤、良善ノトニアラス、

ハ 審判断定セル事ハ、必、君主ノ名號ヲ以テ、之
 ヲ示令シ、且、施行ス、蓋、君主自ラ國家ノ正義
 公直ヲ保護スル所以ノ理、茲ニ於テ發顯ス
 ルナリ、○
○ 普魯士國ノ國憲第六十八章ニ云、憲法
 ノ外、決シテ他ノ權ニ從屬セサル法官ナ
 ル者、君主ノ名號ヲ以テ、司法ノ權柄ヲ施
 行ス、○ 断定セル事ハ、國王ノ名號ヲ以テ、
 之ヲ施行スト、
○ 獄訟ノ處置如何、其次第如何、國家秩序ノ保

護如何、獄訟ニ係レル文書如何、并ニ司法省、
ユスチツ、ミニス、テリウム、按直ニ獄訟ヲ司
 ル法院ニハアラス、唯其事務ヲ司ル省ナリ、
 及其属司ニ於テ、右文書ノ處置如何ヲ監察
 探索スルノ權利、皆君主ノ手中ニ在リ、又總
 テ獄訟ノ事ニ就テ、其官吏ヲシテ、形勢表ヲ
 作り、之ヲ報知セシムルノ權利、亦君主ニ在
 リ、

○國家ノ安寧ヲ破リ、及ヒ政令ヲ害スル罪犯
 者アルニ方リテ、政府ノ權力ニアラサレハ、
 之ヲ追捕スル能ハサルキハ、則追捕ノ命ヲ

下スノ權利、特ニ君主ニ在リ、蓋スタートツア
一ンワルト按追捕ノ權ヲ掌レル官ナリ、詳
ナルトハ、卷之八第四款ニ就テ
 可レルカ、常ニ視察スル所ノ區域ハ、甚狭クシ
 テ、高遠ナル治術ニ著意セサル者ナレハ、動
 モスレハ、其勉カスル處、却テ宜キニ適セス、
 或ハ甚急劇ニ失シ、或ハ甚緩慢ニ流レ、共ニ
 國家ノ害ヲ生シ易シ、能ク此弊ヲ防クハ、獨
 君主ノ力ニ在ルノミ、何者、君主ハ總テ治體
 ノ諸關係ヲ徧察シテ、洩ス所ナキヲ以テナ
 リ、

㊦ 刑法ニ關セル審問ヲ停止スルノ權利亦君主ニアリ、
 ㊧ 但正義公直ヲ害セザランカ為ニ、必此權利ニ就テ、限制スル處アルヲ要ス、
 ㊨ 普魯士ノ國憲第四十九章ニ云、獨君主既ニ就緒セル審問ヲ、別格ノ憲法ニ從テ、停止スルノ權ヲ握ルト、然ルニバイエルン巴以里ノ國憲第八款第四章ニ記ス所ハ、之ト相反ス、曰ク、君主決シテ就緒セル審問ヲ停止スル能ハスト、
 ㊩ 罪科ヲ減シ、及赦スノ權利亦君主ニ在リ、凡

ヲ人ヲ憐ムノ情ハ、素良心ニ備ハル者ニシテ、君主仁恤ヲ以テ、罪科ヲ減シ、或ハ赦スノ權利ハ、既ニ時勢ニ愜ハサル法ノ刻薄ナル所ヲ和厚ナラシメ、及、硬固ニレテ、變通シカタクキ法ヲ、今日千狀萬態ノ景況ニ隨テ、變通セシムルニ、缺ク可ラサル者ニシテ、蓋君主ニ此權利アルハ、實ニ君主國ノ大ニ他ノ政體ニ優ル所以ナリ、○君主ハ、決シテ親テ、人ヲ罪スル能ハス、法官之ニ代リ、君主ノ名號ヲ以テ、憲法ニ由テ、人ヲ罪ス、去、凡君主ハ反

テ、親ヲ人ノ罪ヲ赦スヲ得ルナリ、君主若婦
 人ノ仁ヲ行フキハ、甚メ國家ノ安寧秩序ヲ傷
 ル可シ、去レ氏寛裕ノ心ヲ以テ、真ノ仁恤ヲ行
 フキハ、更ニ國家ノ安寧秩序ヲ堅固ナラシ
 ムルニ足ル。○仁恤ノ處置ト雖、亦法ニ
 合セサル可ラサルヲ以テ、立憲君主國ニ於
 テハ、必スニステルノ連署ヲ取ルヲ緊要ト
 ス、

○マルチレ、ルテレ（按獨乙人、一千四百八
 十年ニ死ス、加特力教ノ大ニ基督ノ一本旨
 ニ背クヲ歎シ、別ニ波羅特士且教ノ一本旨

宗ヲ立テテ、曰ク、「仁恤ト法律トハ、君主必之
 ヲ行フ可シ、君主絶テ赫怒ノ威ヲ震ハス、
 空レク姑息ノ小惠ヲ施スキハ、帝ニ王室
 ノミナラス、其弊ノ及フ處、闔國民人、亦悉
 ク化レテ惡人トナリ、且、禮儀廉恥地ヲ拂
 フニ至ル可シ、又若、君主宜レク怒ル可ラ
 サルニ、却テ憤怒ヲ逞フレ、無益ノ刑ヲ濫
 施スルキハ、遂ニ苛酷ノ政令行ハレ、實ニ
 神ヲ敬スル善人スラ、尚之ニ恐怖シテ、一
 日モ安居スル能ハサルニ至ル可シ、ハイ

〔按〕真神ヲ知ラノ言ニ、「嚴刻ナル法律ハ、」
 大ニ不正ノ法ナリト云ヘリ、余又之ニ加
 ヘテ言ハシ、「無益ノ仁恤ハ、大ナル不仁ナ
 リト、〇父ノ子ニ於ケルノ理ニ同シ、凡ソ
 人ノ父タル者、絶テ其鞭策ヲ加ヘス、其放
 恣ノ行ヲ縱セハ、却テ是レ不慈ノ尤モ甚
 シキ者ト云フ可シ、何者、若此ノ如クナル
 片ハ、其子悛ムル處ナク、遂ニ重刑ヲ蒙ル
 ニ至ルハ、必然ニシテ、即父自ラ之ヲ殺手
 ニ附スルニ、異ナラサレハナリト、

- 〔子〕死刑ノ施行ヲ許可スルノ權利、亦君主ニ在
 リ、故ニ君主自ラ之ヲ許可セサレハ、敢テ死
 刑ヲ行フヲ得ス、蓋臣民ノ生命ヲ敬重スル
 ニ於テ、至要ノ規律ナリ、
- 〔リ〕斷定セル刑罰ヲ施行スヘキ命令ヲ下スノ
 權利、君主ニ在リ、
- 〔又〕法院ニテ訴訟ヲ採用セス、或ハ其裁斷ヲ怠
 ルトアルニ方リテ、訟者之ヲ君主ニ訴フル
 トアル片ハ、直ニ命令ヲ法院ニ下シテ、其審
 判ヲ促シ、或ハ政務ニ就テ起レル訴訟ヲ裁

決スルノ全權ヲ任スルノ權利、又ハ獄訟事務ノ妨害ヲ除去スルノ權利、皆君主ニ在リ、
 〔ル〕負債返償ノ延期ヲ許スノ權利、君主ニ在リ、道理ヲ辨別セサル債主アリテ、國內災厄ノ時ニ當リ、甚ムシク得サルニ非スレテ、暴ニ負債者ニ迫リ、償還ヲ促スニ違ヘハ、君主已ムヲ得ス、其權ヲ私法ノ區域ニ施シテ、償還ノ延期ヲ許スヲ得ルヲ、甚ク緊要ナリ、○此權利ハ、始テ羅馬ニ起立シ、其後獨乙帝國ノ國憲ニ於テ、帝王ノ特權トシテ、載定セシカ、爾來

獨乙各國ノ君主モ亦、此權ヲ掌握シテ、動モスレハ之ヲ濫用シタリキ、抑、此權利タルヤ、實ニ全ク廢ス可ラスト雖也、然レ凡、素、一時債主ノ權利ヲ奪フヲナルカ故ニ、必熟慮シテ、真ニ已ムヲ得サルノ時ニアラサレハ、決シテ之ヲ施行ス可ラス、是故ニ必別ニ一法ヲ設立シ、以テ君主ノ特有セル、此權利ヲ限制ス可シ、且若別種ノ憲法ヲ以テ、此權利ヲ施行スル所ノ國ニ於テハ、兼テ立法者（按即立法府）ノ權ヲモ、必限制スルヲ緊要ナリ、

但カビ子ツ、ユス、〔按〕君主親ラ、獄訟ヲ掌ルノ制ヲ云ス、ノ諸制ハ、既ニ全ク廢止セリ、

方今ノ民主國ニ於テ、獄訟ノ事ハ、通常全ク政府ヨリ分隔シ、形貌ニ於テモ、亦全ク政府ニ從屬セサル者ト為ス、古時主長ノ司法權柄ニ就テ、掌握セシ諸權利中、今僅ニ存スル者ハ、司法職官ヲ授任スルノ議ニ預ルノ權利、罪人ノ追捕ヲ命スルノ權利、及ヒ斷定セシ所ヲ施行スルノ義務等是レナリ、○

○但合衆國ニテハ、政務ニ於テ犯セシ罪科ノ

外ハ、統領其罪ヲ減シ、及之ヲ赦スノ權利ヲ握ル、佛國民主政體ノ時ニ於テモ亦、此權利ヲ握リタリキ、瑞士國ノ政府ニハ、全ク此權利アルヲナシ、

第十八款

第六 財務ノ大權、ヒナイツ、ホ

國家ノ需要ヲ供給シ、及之ヲ供給センカ為ニ、國家ノ所有ルモ、ターゲツヘヲ管理シ、稅餉ヲ收取シテ、之ヲ公費ニ供用シ、及歲入歲費ヲ算計スル等ノ

事務モ、綜テ亦必、君主ノ統括スル所ナリ、此事ニ於テハ、民主國ノ制度ト雖、亦甚、君主國ニ異ナラス、民主國ニ於テモ、財務ハ亦必、一途ニ出テサルヘカラス、所以ト、且、其規律ノ完全具備セサル可ラサル所以ヲ知ル、是ヲ以テ真ノ權柄ニ係レル事務ハ、國民決レテ全ク之ヲ政府ニ委託スルナレト雖、財務ニ至テハ、大抵政府ニ委託シテ、國民之ニ關レト欲スルノ情意ヲ抱ク一少シ、（按）財務ノ權ハ、他ノ諸權ノ命令、指揮、保護等ノ主トナスカ故ニ、權柄ノ意自ラ少シ、是ヲ以テ、真ノ權柄ニ係レル事務ト、分別スルナリ、

第七

監臨ノ大權

監臨ノ權ハ、他ノ施政權利トハ、全ク其趣ヲ異ニシテ、命令、指揮、保護等ノ如キ、真ノ施政權ヲ行フヲ先務トセス、今日現ニ、實際ニ顯ハル、情實、事態ヲ通察スルヲ以テ、先務ト為シ、次テ右ノ施政權ニ及ホス者ナリ、是故ニ君主ハ、國家職官ノ規制職掌ヲ、監臨スル權アルノミナラス、又實ニ自主自立シテ、國家ノ訓督ニ賴ラサル、人物及、事件（按）私人私事ヲモ、兼テ總監スルノ權アリ、政府ハ其版圖内ニ起リテ、國家ノ利病ニ係リ、或

ハ國家ノ法制ニ關スヘキ諸事ヲ舉ケ、總テ之ヲ
 通察スルノ權ヲ有ス、○政府ハ右等ノ諸件ヨリ、
 國家ニ患害ノ生スルヲ、深慮シテ、其安寧ヲ長全
 スルニ適當セル方法ヲ、機會ヲ失ハスシテ、設ケ
 ンカ為、常ニ著意シテ、怠ラサルヲ要ス、

古時

佛朗哥國

ニテ、發遣使

ボート

ヲ置キ、方今復

各國ニ於テ、形勢官

國內ノ形勢表ヲ設ル官ナリ、

ヲ置クカ如キハ、即君主監察ノ權ヲ施行セシカ

為ナリ、殊ニ發遣使ノ如キハ、通常形勢表スタク

ヲ設ルノ外、更ニ親レク州縣ノ情實事體ヲ視察

セシムルカ為、必要ナル者タルヲ以テ、今時ト雖

氏、此制ノ全ク亡ヒタルニハ非ス、○但、國家タル

者、臣民私事ノ秘密、及其親族間ノ秘密ヲ嚴密ニ

探索シテ、遂ニ民人ノ自由ヲ妨ルニ至ル等ノ

ハ、敬テ為ス可ラス、且、縱令必要ノ事ト雖、氏之ヲ

探索スルニ、不正ノ術ヲ用フルハ、甚善カラス、其

他國家ノ宜シク關係ス可ラサル事ニ關係シテ、

遂ニ臣民ノ後見ベボンルムノ如クナルニ至ル

ハ、又尤善カラストス、

殊ニ邑社ゲマインデ、及諸會社等ヲ創立ス

ルニ、其事態若、國家ノ利害得失ニ關係スヘキ者
 アルハ、政府必、其許スト否トヲ、考定ス可キヲ
 以テ、必、預メ其情實事體ヲ、監察セサル可ラス、去
 氏會社ヲ結フノ事、唯、民人互相ノ私事ノミニシ
 テ、絶テ國家ノ利害ニ涉ラサル者ナラハ、政府敢
 テ之ニ關ス可ラス、○

○羅馬帝國ノ法ニテハ、縱令、國家ニ利害ナキ
 會社ノ事ト雖、政府必、之ニ關シテ、民人ノ自
 由ヲ限制シタリキ、

第八 教育方法ノ監護、ソルゲ、ヒール、ル、チ

國家ハ人材教育ヲ監護ス可シ、凡、學術諸科、大小
 學校ノ規制ノ如キハ、專、國家ノ設立スヘキ者ニ
 ハアラサレ、其良否得失、大ニ、國家ノ成敗ニ關
 係アルカ故ニ、必、之ヲ監護シテ、其弊害ヲ救ヒ、以
 テ教育ノ方法ヲシテ、國家ニ裨益アラシムルハ、
 實ニ政府ノ權利、及、義務ト云フ可シ、
 神教會ハ、國家ノ内外ニ通セル大會ニシテ、自ラ
 國家羈軛ノ外ニ在テ、獨立スル者ナレ、政府亦
 之ヲ監察シテ、其弊害ノ國家ニ及フヲ、防止セサ

ル可ラス、是等ノ事ハ、總テ第九卷ニ於テ、詳論ス可シ、

第十九款

第九

權利施行ノ體裁、

ホルムエーデルク、ウスムエーデルク、

即、布告、

ヘルオルグ、及、命令、

ヘル、

以上論說スル所ヲ以テ、施政權柄、全ク斯ニ盡セリト為ス可ラス、上文論スル所ハ、所謂一點ノ中心ニ圓滿セル國權ノ散シテ各殊ノ權利トナリ、發耀セル者ト云フ可キノミ、按、本卷第十五款、內權ノ章ヲ參看ス可

是故ニ此國權ハ、國家遇フ所ノ景況ニ隨テ、猶數種ノ權利トナリ、諸方向ニ發耀シ、又景況新々ニ生スレハ、隨テ復其新方向ニ發耀ス、真ニ無盡ノ泉源ノ如ク然リ、

施政權柄ヲ施行スルノ體裁、乃、左ノ如シ、

甲

アルゲマイ子ス、ヘルオルドヌレダ

按、政府憲

法許ス所ノ区域内ニ於テ、示シテ此權柄ヲ施行ス、

乙

事ニ當リ時ニ臨ミ、アーンオルドヌレダ、

ベヘール按、共義ニ命及、ヘルボトノ義、禁止ヲ

示シテ、此權柄ヲ施行ス、
甲行ニ舉タル布告ノ事ニ就テハ、既ニ上卷ニ論
述セリ、卷之五第九款ヲ參看スヘシ乙行ニ舉ル命令、及禁止ノ
如キモ亦、真ニ政府ノ施政權柄ニ屬ス、○政府ヲ
以テ、獨、吏務ノミヲ掌レル者ト為シ、決シテ命令
指揮ノ權柄ヲ握ルヘキ者ト為サ、ルハ、乃、當今
ノ通病ニシテ、其義ノ害タル、甚、少々ナラズ、凡、國
家ノ國家タル所以ヲ失ハサラント欲セハ、政府
唯臣民ヲ訓戒說諭スル等ヲ以テ、足レリト為ス
可ラス、緊要ノ事ニ至テハ、必、共ニ確乎不拔ノ威

嚴ヲ以テ、命令指揮ヲ出シ、臣民ヲシテ、必、之ニ聽
從セシムルノ權アラサル可ラス、○政府ノ命令
指揮ナル者ハ、即、按、命令ヘール、按、命令アウフタラダ、
按、委任ノ義、按、請願レスタクリプト、按、臣民ノ請願ニ
オシ、按、請願ノ義、按、許容バン、按、類ノ義、按、命ヘルボット、按、禁止ノ義、按、其他ノ義、按、許容ノ義、按、命ヘルボット、按、禁止ノ義、按、其他ノ義、
尚許多アリ、

○華盛頓ノ人ト為、ハ、國權ノ專恣ニ至ルヲ、惡
ム、尤、甚、去、天一千七百八十六年、明第十
月三十一日ノ書翰ニ、左ノ文ヲ述ヘタリ、足下
余ニ勸ムルニ、按、合衆國ノ騷亂ヲメツセテ、按、部セツ

鎮定スルニ、政府宜シク訓戒説諭ヲ用フ可シ
 ト云ヘリ、去レ余ハ訓戒説諭ヲ用フルノ方法、
 如何ヲ知ラス、縱令今之ヲ用フルノ方法アル
 モ、恐ラクハ此ノ如キ大騷亂ヲ鎮定スルニ於
 テ、適應セル妙術ト云フ可ラス、夫、訓戒説諭ハ、
 決シテ政府ノ威權ト為スニ足ラスト、^①

○按、^②セセツニ騷亂起リシ時、其地ヨリ
 合衆國政府ニ請ヒ、訓戒説諭ヲ用ヒテ、和平
 ヲ謀ラント欲セシ故、華盛頓之ニ答フル、
 注文ノ如シ、蓋、華盛頓ノ意謂ラク、政府ノ權

ヲ以テ、僅ニ訓戒説諭ヲ為スニ過キストス
 ルハ、甚、不可ナリ、此ノ如キ、大騷亂發ルニ方
 リテハ、政府宜シク其威嚴ヲ張テ、之ヲ鎮壓
 セサル可ラス、訓戒説諭ヲ用フルカ如キハ、
 適、政府ノ弱ヲ示ス者ニシテ、決シテ威權ヲ
 顯スニ足ラスト、信ニ確論ト云フ可シ、
 政府此命令指揮ノ權ヲ、若ク施行スルニ於テハ、
 必、現存ノ國憲、憲法、及其他ノ規律ニ限制セラレ、
 故ニ敢テ之ヲ毀損スルヲ許サス、又敢テ其區域
 ヲ超ユルヲ許サス、○政府ハ、公利公益ノ為ニ已

ム可ラサル所アレハ、則必之ヲ施行スヘキ命令
ヲ下ス可シ、但施行スル者ヲメ、必正善ノ方法ニ
由ラシムヘシ、

此ノ如キ限制ハ、施政權柄ニ於テハ、立法權柄ニ
於テヨリモ、施シ易ク、且速ニ施シ得可シ、○殊ニ
法院ノ如キハ、其職掌内ニ於テ審判断定スルニ
方リテハ、縱令政府ノ命令ト雖モ、形自或ハ事理
ニ於テ、憲法ニ合セサル所アレハ、決シテ之ヲ遵
奉セサル、權アルノミナラス、尚且其職掌當然ノ
事ニ於テハ、全ク政府ノ意思ニ戾レル、處分ヲ以

テ、國家ノ法制秩序ヲ、保護スルノ權アリ、○然リ
ト雖、法院ハ、政府ノ監官トナリテ、專ラ政府ノ
處分ヲ、監督スルノ權アラズ、且又政府ノ命令指
揮、形見事理ニ於テ、或ハ憲法ニ悖戾スルヲアリ
テ、敢テ之ヲ審問スルノ權ナシ、○是故ニ、臣民政
府ノ處置ヲ以テ、法院ニ控訴スルハ、通常許サ、
ル所ナリ、卷之八第五款ニ於テ、猶詳論スヘシ、
政府ノ下等官員ノ如キニ至テハ、其職掌ノ區域
内ニ於テ、政府按等ニステヨリ命セラレシトハ、
事理上ニ於テ、縱令憲法ニ悖戾スル所アルヲ察

ルモ、必之ヲ遵奉セサルヲ得ス、何者、下等官負ハ、
 全ク政府ニ從属スル者ニシテ、決シテ獨立スル
 者ニアラサレハナリ、是故ニ此等ノ輩ハ、政府ノ
 處分ニ就テ、毫モ保任ノ義務ヲ負フ者ニアラス、
 實ニ保任ノ義務ヲ負フ者ハ、自ラ其事ヲ處分セ
 ル政府、即チニステルナリ、卷ノ七第三款
ヲ、參看ス可シ、
 但國憲、或ハ憲法等ニ於テ、儘全ク此規律ニ相反
 スルコトナキニアラス、

第二十款

第十 政府非常ノ權、アウストリア、ホーレン、ギムス、レ
グン、即チ國家不得已ノ權、スタット、
ト、國家ハ、高尊ノ者ナルヲ以テ、之ヲ保護スルハ、乃チ
 政府ノ第一義務タリ、是故ニ國家ニ已ムヲ得サ
 ルノ事體大危乱ヲハル、按發スルニ方リテ、之ヲ救
 ハンカ為ニハ、綴令民ノ私權利ヲ毀損シ、或ハ現
 存ノ法制秩序ヲ傷害スルハ、決シテ妨ナシトス、
 實ニ國家ノ大危亂ヲ救フニ於テ、他術アラサレ
 ハ、一二私人ノ權利ヲ枉ルハ、論スルヲ須ヒス、衆
 多群民ノ權利ト雖、氏、必之之ヲ壓抑セサルヲ得ス、

國家ノ安寧健康ハ、至要ノ事ナリト云ヘル格言
 アルニ非ラスヤ、故ニ此安寧健康ヲ保ツニ、必要
 ナルヲハ、力ヲ極メテ、為サル可ラス、但政府ヲ
 利シ、民ヲ害スルノ意ヲ以テ、民權ヲ犯スハ、極メ
 テ不可ナリトス、

〔第二〕所謂政府非常ノ權、即政府不得已ノ權ナル
 者ハ、全ク此理ヨリ生スル者ニシテ、所謂ホルク
 不得已ノ權利〔按〕本卷第三款〔第一〕其理同一ナリ、
 〔按〕施行スル者ハ、全ク異ナルヲ云、但政府若此
 權ヲ施行スルハ、人民ノ權利及自由ニ於テ、決

シテ損害ナキヲ保ツ可ラス、且若政府此權ヲ施
 行スルヲ以テ、常規ト為スハ、其權遂ニ限制ス
 ル所アラステ、全ク暴政ニ陥ルハ必然ナリ、故
 ニ平常ニ當テ、非常權ヲ施行スルハ、決シテ許サ
 サル所ナリ、去レ實ニ已ム、ヲ得サルノ事體發ス
 ルニ方リテハ、此權ヲ用フルニアラサレハ、僅ニ
 其一部ヲ庇フカ為ニ、全體却テ大災害ヲ被ルニ
 至ル、是故ニ此權決シテ致ク可ラス、○船艦颶風
 ニ遇フテ、殆道ル、ノ術アラサルニ方リテハ、船
 長實ニ其賤ヲ辱シメサルノ器アレハ、斷然船客

ノ物品ヲ、激浪ニ投レ、敢テ惜マス、又苦戰ノ時ニ於テ、數隊ヲ捨ルニアラサレハ、決シテ全軍ノ捷ヲ奏スル能ハサル歟、若クハ全軍ヲシテ、妨碍ナク、退行セシムル能ハサルニ臨テハ、老成ノ將ハ、斷然數隊ヲ捨テ、敢テ顧ミサルハ、必然ナリ、國家大危亂ノ時ニ臨ミ、君主タル者ノ處置、豈獨之ニ及スルヲ得ンヤ、按全体ヲ救ハシカ爲ニハ、已要ナル所以テ云フ、治體ニ通曉セル國ニ於テハ、夙ニ此理ヲ辨識セシカ故ニ、既ニ國憲上ニ於テ、預メ此ノ如キ、非常

權ヲ制シ、設立シタリ、往古羅馬ニ於テ、按チクタト按ル按時按無按限按ノ按大按危按亂按ノ按時按ニ按於按テ按、按一按ヲ按立按テ按シ按ハ按、按即按テ按此按理按ニ按出按ル按者按ニ按シ按テ按、按彼按ノ按「按コン按ス按ラ按ト按、按天按下按ノ按事按ヲ按以按テ按、按自按ラ按任按ス按ル按ハ按、按決按シ按テ按惡按キ按コ按ニ按ア按ラ按ス按、按ト按云按ヘ按ル按規按律按ハ按、按實按ニ按確按言按ト按云按フ按可按シ按、按又按非按尼按西按亞按ニ按於按テ按ハ按、按國按家按大按危按亂按ノ按時按ニ按臨按テ按ハ按、按厘按ニ按數按人按共按ニ按國按家按ヲ按救按フ按ノ按權按ヲ按掌按握按シ按タ按リ按、按其按他按英按國按ニ按於按テ按ハ按、按ベ按ア按ス按、按コ按ル按プ按ス按ア按ク按テ按ノ按規按律按、按百按七按十按九按年按ニ按於按テ按、按立按テ按タ按ル按法按ニ按シ按テ按、按罪按人按ヲ按捕按縛按ス按ル按ハ按、按必按ズ按ニ按十按四按字按間按ニ按糾按問按ス按可按ク按、按決按シ按テ按之按ヲ按過按コ按シ按、按長按ク按幽按囚按ス按ル按ヲ按計按ス按ル按ニ按シ按テ按、按最按モ按緊按要按ナ按ル按ニ按シ按、按臣按民按ノ按自按由按ヲ按保按護按ス按ル按ニ按於按テ按、按最按モ按緊按要按ナ按ル按

者ナヲ、一時廢棄スルノ法、ス、ホ、ペン、并ニ歐洲大
 地各國ニ於テ、ベラーゲルンダス、ソウスタンド、
 及ヒスタンドレフトノ法、按共ニ守城、或ハ大騷乱
 時ニ方リ、將軍暫ク常
 律ヲ廢シ、嚴密ノ處置アルカ如キ、皆非常權ノ已
 ヲ為シ得ルノ法ナリ、
 ム可ラサルヲ以テナリ、

君主國民主國ニ論ナク、絶テ已ムヲ得サル事體
 ノ生セサル理ハ、決シテ有ル可ラス、然ルニ儘其
 國憲上、全ク此非常權ヲ設定セサル國アリ、或ハ
 能ク之ヲ設定スルモ、甚々細詳ヲ得サル國アリ、又
 ハ非常權ノ遂ニ專横ニ至ランヲ恐レ、故ニ之ヲ

禁スル國ナキニシモアラス、去、凡國家焉シヨ已
 ムヲ得サル事體ノ絶テ生セサル理アラシヤ、若
 此ノ如キ國ニ於テ、一旦大危亂ノ生スルアルニ
 遇ヘハ、之ヲ救防スルノ術、殆難シ○但此ノ如キ
 國ニ於テモ、英邁ナル王公輔弼ハ、已ムヲ得サル
 事體ノ生スルニ遇ヘハ、必、紙上ノ憲法ヲ捨テ、
 能ク天理法ナツルルゲヤク、
 理ニ出ル憲法ノ義、
 天ヲ取用シ、而シ
 テ自ラ保任ノ義務ニ背テ、破法ノ責問ニ違フヲ
 モ顧忌セス、敢テ國家ヲ救フヲ以テ、其專任ト為
 ス、去、
 去、
 去、其勢已ムヲ得サルニ方リテハ、彼ノチ

クタトールルノ無限權ヲ許スノ規律ヲ預メ國憲ニ載定セル國ニ於テ、事ヲ濟スニ比スレハ、其處分ノ難キ、實ニ數倍ナリ、何者、臣民直ニ其處分ノ國憲ニ背ケルヲ責問スルヲ必然ナレハナリ、○然ルニ暗弱ナル、王公輔弼ハ、國家内患外寇アルニ方リテモ、決シテ此ノ如キ勇斷ヲ為スヲ能ハスシテ、空シク國家ヲ亡滅ニ附シテ、救フ能ハス、

○按ニニステルハ、政令ノ國憲ニ合スルヲ、保任スルノ義務アルヲ、既ニ本卷第十三款ニ詳論スルカ如シ、去レ賢輔良弼ハ、此ノ如

キ時ニ臨ミ徒ニ國憲ヲ墨守シテ、國家ヲ危ウスルヲナク、必、自己ノ名利ヲ棄テ、身命ヲ抛テ、國家ヲ救フヲ以テ、其專任ト為ス、

〔第二〕非常權ヲ施行スルヲハ、已ムヲ得サルノ事體、既ニ發シタル時、若クハ未タ發セサルモ、其機既ニ現然トシテ、遂ニ除ク可ラサル時ニ於テス可シ、唯國家全體ノ利益ヲ増進スルノ目的ヲ以テ、此權ヲ施行スルハ、甚、非理ナリトス、何者、若唯國家全體ノ利益ヲ増進スル為、非常權ヲ用フルヲ許スルハ、此權遂ニ常權トナルニ至ル可シ、此

權若常權トナルキハ、國家ノ法制秩序モ、變亂ノ
 為、遂ニ滅裂スルニ至リ、且、自由ノ權モ、亦共ニ保
 存スル能ハサルハ、必然ノ勢ナレハナリ、○國家
 ノ法制、并ニ臣民ノ自由ヲ保護スルハ、政府ノ常
 義務ナリト雖、此義務ヲ盡サンニハ、必、現存ノ
 法ヲ守ラサル可ラス、
 又非常權ヲ限制センカ為メニ、預メ已ムヲ得サ
 ル事體ヲ、認定指示スルノ規律ヲ綿密ニ立タル
 國アリ、即、羅馬ニ於テハ、セナートノ議ヲ以テ、已
 ムヲ得サルノ事體ヲ決定シ、英國ニ於テハ、已ム

得サルノ事體ヲ認定シテ、彼ノハベアス、コルプ
 ス、アクテヲ一時廢棄スルハ、獨、巴力門ノ權ニア
 ルノ規律ヲ立テタリ、○佛國一千八百四十八年
 嘉永ノ國憲、第百零六章ニ、唯憲法上ニ已ムヲ得
 サル事體トシテ、認定セル、景況ノ發シタル時ニ
 於テノミ、ベラードゲルングス、ソウスタンド（前
二）ニ用フヘキ旨ヲ載セ、復、普魯士國ニテハ、戰
 争及、反亂ノ起リニ時ヲ以テ、已ムヲ得サル事體
 トナシ、而シテ此ノ如キ時ニ於テハ、國憲ノ二三
 條規ヲ、一時全ク廢止シ得ルト為セリ、○但、古

未王公輔弼、實際ニ臨ミ、非常權ヲ施スニ方リテ、
 此ノ如キ限制ヲ拘守スルキハ、決シテ國家ノ急
 ヲ救フニ足ラサルヲ知リシ時ニハ此限制ヲ超
 ヘテ、尚其歩ヲ進メタリキ、

已ムヲ得サル事體ヲ指示スルノ規律ナキ國ニ
 於テハ、必、國家元首之ヲ決定スルヲ當然ナリ、但、
 立憲君主國ノ如キハ、此時ニ於テ、君主ト共ニ連
 署スル所ノミニステル、其處分ヲ保任スルハ、固
 ヲリ當然ニシ、且、預^スタ^リツ^ラト^ト （憲國政ニ參
議スル高官
 卷之七第六ニ詳ナリ、ニ謀レハ更ニ善ナリ、○但、此決定ヲ

以テ、國家元首ニ托シテ、代國府ニ托セサルハ、何
 ヲヤ、蓋、代國府ハ、已ムヲ得サル事體ノ發スル時
 ニ臨ミ、必^スレ^モ現ニ集會スル者ニアラス、且、代國
 府ハ、事情切迫ノ時ニ臨ミ、神速ニ救防ノ策ヲ運
 シ、以テ適宜ノ處分ヲ施スノ職官ニアラス、加之、
 決シテ此ノ如キ職掌ニ堪サルヲ以テナリ、○但、
 此權ハ政府ノ常權ト異ニシテ、素強暴ノ權ナル
 ヲ以テ、政府若已ムヲ得サルニ非スレテ、恣ニ此
 權ヲ施行スルヲ、輒近獨逸各國ニ於テ、其政府恣
 ニ此暴權ヲ施行セシカ如クナルキハ、臣民塗炭

ニ苦シムノ恐、少カラストス、是故ニ政府此權ヲ施行スルニ方リテハ、必ス兩院之ヲ監督スルノ權ヲ握ル、甚緊要ナリ、

第三、縱令事體已ムヲ得サルノ時ト雖、猶國憲ニ悖戾セサル處分ヲ以テ、防護シ得ルノ術アル間ハ、決シテ非常權ヲ用フルヲ許サス、又已ムヲ得サルノ事體、將ニ起ラントスルノ機、先現ハル、カ為ニ、能ク憲法ニ由テ、防護スヘキ方法ヲ設ケ得ルハ、則非常權ノ區域、自ラ減縮ス、未非常權ノ規律トナスカ故ニ、非常權ノ區域自

ルラ減縮ス、普魯士國等ニ於ケルカ如ク、已ムヲ得サル事體ノ生スル時ニ於テハ、政府一旦救時ノ憲法ヲ告示スルノ權ヲ握レル國ニ於テハ、政府ノ此權ヲ施行スルヤ、決シテ非常權ヲ施行スト云フ可ラス、既ニ預國憲、及ヒ其他ノ憲法ヲ以テ、限定セル權利ヲ、施行スト云フ可シ、

第四、古時羅馬ニテハ、已ムヲ得サルノ事體生スルニ方リテハ、〔按本款第一ノ官ヲ立テ、非常權ヲ施行セシメシカ氏、若此ノ如キ官ヲ立テサル國ニ於テハ、國家元首、必ス此權ヲ施行

ス可シ、決シテ從屬スル所ノ職官革之ヲ施行スルヲ許サス、但、寇賊俄ニ襲来スル時等、防禦瞬間ヲ争フニ方リテハ、官吏ハ勿論、縱令一私人ト雖、亦能ク一旦此權利ヲ施行シ、危急ヲ救フニ於テ、決シテ妨ケナシ、但、直ニ之ヲ政府ニ報シテ、其後ノ處置ニ就テハ、政府ノ號令ヲ俟ツヲ要ス、去、若、國家元首、其職ニ堪ヘサルカ為ニ、遂ニ已ムヲ得サルノ事起ル時ニ於テハ、必、重要ノ職官、非常權ヲ施行セサルヲ得ス、即、ニス、テル、及、西院、或ハ、時宜ニヨリテハ、將軍等之ヲ施行ス可シ、

第五 救防ノ目的ニ從テ、其方法ヲ設定シ、及、之ヲ限制ス可シ、
 未、事ナキ時ニ於テ、預メ救防ノ方法ヲ設定セシト欲スルハ、徒ラニ無益ノ勞ト云フヘキノミ、凡、已ムヲ得サルノ事體發スルニ當リテハ、一時公權利ヲ阻止シ、又ハ之ヲ廢棄シ、或ハ私權利ヲ毀損スル等、固ヨリ妨ケナシトス、例、ハ公事ノ商議及、會合ヲ禁止シ、出版ノ自由ヲ、一時阻止シ、又ハ非常法院ア、多、セル、オル、デ、ンヲ設ル等ノ如キ、都テ公權利ヲ阻止廢棄スル所以ナリ、所謂國家已ム

ヲ得サルノ事體ナル者ハ、素國事ニ關スルナ
 ルカ故ニ、此事發スルニ至リテハ、是等公權利ヲ
 沮止廢棄スルハ、私有ヲ毀損シ、或ハ私人ノ日用
 交際、及自由ノ權利ヲ限制スルヨリモ、更ニ緊要
 ナリトス、但國家安寧ニ存在スルノ權利ハ、元ト至
 高ノ權利ナルカ故ニ、已ムヲ得サルノ事體、發ス
 ルニ方リテ、國家存在ノ為ニ、妨碍トナルヘキ諸
 權利ハ、舉テ之ヲ禁止スルコト、甚緊要ナリトス、
 救防ノ方法ヲ限制スルキハ、非常權ノ區域、亦自
 ラ定マルナリ、即左ノ如シ、

甲 救防ノ方法ハ、救防ノ難易ニ適應スルヲ

要ス、決シテ不適宜ニ嚴ナル可ラス、又此
 方法ヲ施スカ為ニ、現存ノ方ヲ毀損限制
 スルモ、亦救防ノ難易ニ隨テ、其可ニ適ス
 ルヲ要ス、決メ不適宜ニ大ナル可ラス、

乙 既ニ救防ノ志ヲ達シタル後、仍非常權ヲ

施行スルヲ許サス、是故ニガクタトール
 前ニ、權ヲ施行スル時限ヲ、短小ニ定ム
 ル國アリ、蓋此權ヲ施行スル時限、遷延久
 シキ時ハ、遂ニ變シテ暴雲ノ權トナルヲ

恐ル、ナリ、

丙 其事體唯一時ノ方法ヲ設ケテ、救防シ得
 ヘキキハ、決シテ悠久ノ方法ヲ施ス可ラ
 ス、且、立法府ハ、常ニ此方法ノ舉行ヲ監督
 シ、速ニ平常ノ法制ニ、復セシムルヲ務ル
 ノ權アリ、殊ニ已ムヲ得サル事體發起ノ
 際ニ於テ、一時令シタルアルゲマイ子、ヘ
 ルオールドヌング〔按前款ノ如キハ、立法府
 ニ出ス〕其時機ヲ察シ、務メテ速ニ廢止セシムル
 事ニ、心ヲ用フ可シ、

丁 事體方ニ殷ナルヲ以テ、綴令大ニ、非常權

ヲ施スヲアリ、其トノ之ヲ施行セ、
 ニステルハ、其方法ニ就テ、必、自ラ保任セ
 サル可ラス、何者、若、此ノ如キ時ニ於テ、
 ニステル保任ノ義務ヲ負ハサルハ、是
 即チニステル唯私利ノ為、ニ、國難ヲ救防
 スト云フ可クレテ、決シテ實ニ國家ノ為
 ニ、其難ヲ救防ストハ、云フ可ラサレハナ
 リ、○非常權ヲ施行スル、愈嚴猛ナレハ、之
 ヲ施行スル者、其方法ノ已ムヲ得サルニ

出ル所以ヲ、保任スルノ義務モ、亦愈大ナ
 リ、
 戊 非常權ヲ施行スル時ニ於テ、悠久ノ新法
 ヲ立ルコトハ、通常許サ、ル所ナリ、然レ唯
 已ムヲ得サルノ事體ナルヲ以テ、現存ノ
 法ヲ毀損スト雖レ、當ニ之ヲ犯法ノ處分
 トセサルノミナラス、却テ緊要ノ處分ト
 為スナリ、去レテ法ニ合セサル事ヲ舉ケテ、
 之ヲ法ト為スカ如キハ、甚、不可ナリ、凡ソ
 非常權ハ、唯非常ノ事發スルカ為ニ、已ム

ヲ得スニテ、緊要ト為ス者ニシテ、決シテ
 新法ヲ立ルカ為ニ、緊要ト為スニアラス、
 是故ニ政府ノ威權ヲ逞シシテ、新ニ私法
 ヲ設ケ、或ハ法院ノ審判裁斷ヲ經スニテ、
 恣ニ刑罰ヲ施ス等ノ處置、及其他現存ノ
 國憲ヲ、永ク變革スル等ノコトハ、通例非常
 權ノ已ムヲ得サル處分ト、目スルヲ許サ
 ス、○但レ此ノ如キ處分ト雖レ、或ハ認許セ
 サル可ラサルコトアリ、凡、已ムヲ得サルノ
 事體ヲ、救防スルノ術ハ、素、此事體ノ大小

緩急ニ應メ、舉措セサル可ラス、此事體ノ起リタル原因ヲ推スニ、若國憲ノ不善ヨリ生スル者ナルハ、國憲ニ隨テ、其原因ヲ除去スル能ハサルハ、固ヨリ論ナシ、故ニ此ノ如キ時ニ方リテ、國家ノ艱難ヲ救ハント欲スル者ハ、預國憲ヲ改革センコトヲ企テ謀リテ、之ヲ遂ケサル可ラス、既ニ輓近各國ニ於テ、顛覆及ヒ復舊顛覆クテ又オ旧制ニ復センカ為ニ、起ス所ノ顛覆ヲ云、ノ為ニ、國憲數次顛圮シテ、遂ニ不具ト

ナリシカ故ニ、此ノ如キ改革屢アリキ、○此ノ如キ改革ヲ為スニ方リテハ、從來ノ立法院、若クハ新ニ選任セル立法院等、能ク其方法ヲ監察シ、以テ現法ヲ犯ス所ノ新法ヲ認許シテ、遂ニ之ヲ真實ノ法ト為ス、ノ權アル可シ、○

○普魯士王非的利、維廉第四世一千七百五十年ニ生レ、八百一十一年ニ歿ス、ハ、一千八百四十九年嘉永ニ於テ、非常權ヲ施行シ、復佛國統領路易、那破倫三世ナリ、ハ、一千八百

五十一年嘉永四年第十二月二日ニ於テ、非常權ヲ施行シタリ、即非的利、維廉第四世ハ、第二院按即下ヲ廢シテ、獨自カラ代議者選擇ノ法ヲ改革シ、復路易、那破倫ハ、ナチオナールヘルサムリング議按會ノヲ解イテ、更ニ新國憲ヲ制シタルヲ云フナリ、○此ノ如キ非常權施行ノ方法ヲ以テ、或ハ正ト為シ、或ハ不正トナス者アリテ、其論一定セサレ、佛國共ニ、遂ニ之ヲ認許シテ、全ク遵奉スルニ至リシハ、又疑フ可ラス、

大井潤一 校

國法汎論卷之六 下終

自是子舍... 卷六... 音省

Vertical text on the left page, possibly a library stamp or title.

